

平成29年度 地域連携事業報告書

地域教育実践研究センター



学校法人福原学園
九州女子大学・九州女子短期大学

目 次

第1章 大学における地域連携について

I. 大学が地域連携する意味	2
II. 組織と業務内容	3
1. 組織	
2. 業務内容	
3. 外部評価	
III. 平成29年度の地域連携事業実績一覧	4

第2章 平成29年度の地域連携事業

I. 芦屋町との包括的連携事業	6
1. さわらサミット推進プロジェクト	
2. 芦屋町課題発見プログラム	
3. 地域交流サロンにおける公開講座(硬筆教室)	
4. キャラバン隊による模擬保育	
II. 北九州市との連携事業	12
1. 大規模型公開講座の実績	
2. 通常型公開講座の実績	
3. 公開講座の実施内容	
III. インターンシップ推進事業	22
1. インターンシップの種類	
2. インターンシップ参加スケジュール	
3. 各インターンシップの実績	
IV. 学生ボランティア事業	26
1. グリーンティーチャー	
2. 病院・施設ボランティア	
3. 図書館ボランティア	
4. 幼稚園・保育所・施設ボランティア	
5. キャラバン隊	
V. その他の地域連携諸事業	28
1. 北九州・下関まなびとびあ「低学年向けプログラムWG」への参加	
2. 北九州商工会議所との連携事業	
3. 北九州ゆめみらいワークへの出展	
VI. 研究活動	29
1. 学会報告：地域活性学会「第9回研究大会」	
2. 共同研究事業：水巻町との災害食レシピ開発	

第3章 学外実習・介護等体験および教員免許状更新講習等

I. 平成29年度学外実習・介護等体験の実績	32
II. 教員免許状更新講習の受講者推移(平成21年度～平成29年度)	33
III. 平成30年度教員免許状更新講習の開設予定講座(8/4～8/10)	33

参考資料

I. 地域教育実践研究センターの各種委員会構成員	34
II. 地域教育実践研究センターの運営委員会等年間実績	34
III. 地域教育実践研究センター外部評価委員会報告	35
IV. 地域活性学会「第9回研究大会」発表要旨	36

インターンシップ書式

1. 登録票
2. 報告書

ボランティア等書式

1. 登録票
2. 出勤簿
3. 活動日誌

I. 大学が地域連携する意味

本学は、「地域に根差した実践教育を展開する大学」として、これまで取り組んできた教育・研究を地域社会の発展に資するため、平成27年6月1日に地域教育実践研究センターを設置した。

地域教育実践研究センターでは、学部・学科、および教員個々が実施してきた地域との関わりについての実態調査や地域が抱える課題や要望等を把握のうえ、「学生の質保証の強化」、「大学の教育・研究機能の活用」および「地域社会との共生」の3本柱を軸として、地域連携事業の在り方を検討し、本学の地域貢献(型)による大学創りに取り組む。

学生の質保証の強化

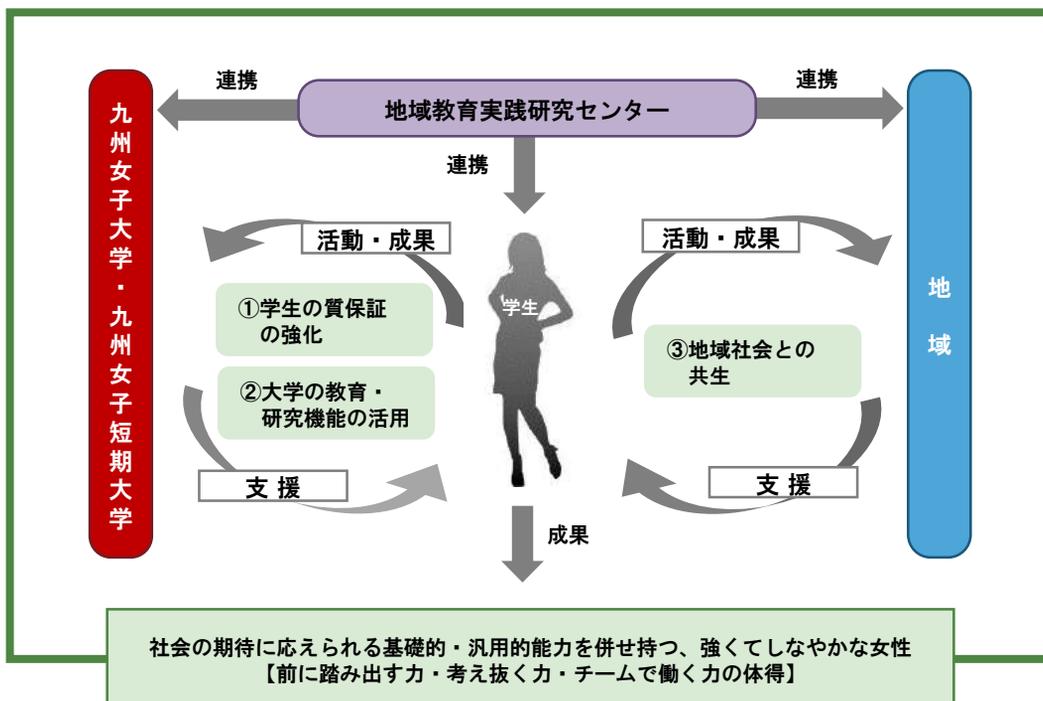
- ・地域課題(ニーズ)と大学資源(シーズ)を把握し、地域の課題を解決するため、学生ボランティアの育成を実践するとともに、学生の実学的教育を実践する。また、学生自身の研究テーマを設定して臨地研究を行うことにより、学生の研究論文に繋げていく。

大学の教育・研究機能の活用

- ・地域課題の現状調査を行い、データを分析し、これに対応する教育プログラムを作成する。また、教員による地域への出前型講座等を学生ボランティアと実践し、事業評価を行う。将来的には、「地(知)の拠点」として地域(自治体・企業等)と地域課題を解決する補助事業や共同研究の実施も視野に入れる。

地域社会との共生

- ・本学と自治体が組織的・実質的に協力し、地域課題と大学資源のマッチングにより、地域と大学が必要と考える取り組みを実践することで、地域との共生を実現させる。



II. 組織と業務内容

1. 組織

地域教育実践研究センターの適正な管理運営を図るため、「地域教育実践研究センター運営委員会」（以下、「運営委員会」）を設置している。運営委員会は、センター所長、センター副所長、教務部長、学生部長、事務局長、大学・短大の各学部等から学長が推薦する教育職員、その他学長が必要と認めた職員で組織している。組織的に事業に取り組むため、事業案件を運営委員会で審議・決定し、本学の評議会に審議事項を上申している。また、事務を所管するのは、センター所長、センター副所長、事務職員が行う。

さらに、地域教育実践研究センターが各学科・専攻と十分に連携し、連携事業の企画内容をより詳細に検討するため、運営委員会の下に「地域活動推進ワーキンググループ」（以下、「地域活動推進WG」）を設置している。

2. 業務内容

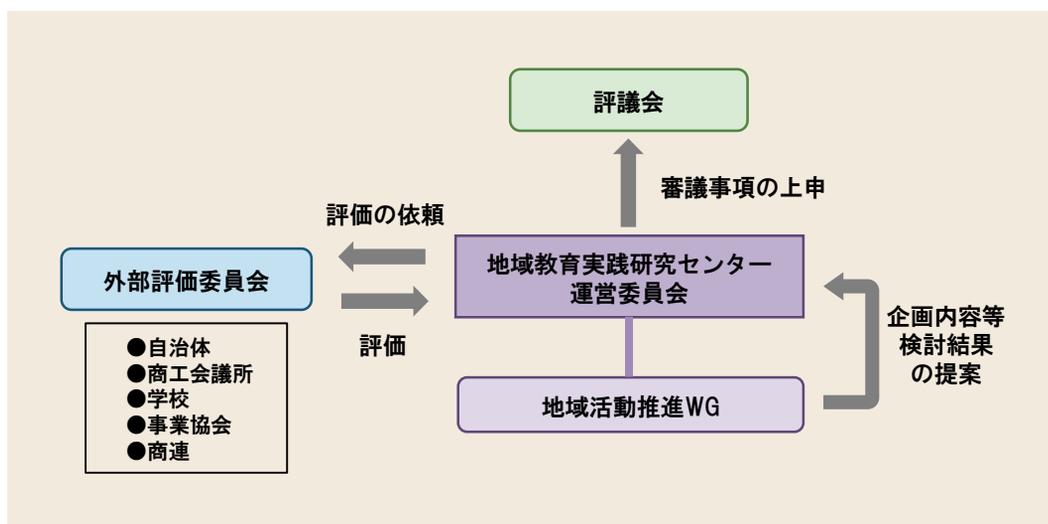
地域教育実践研究センターは、以下の業務を実践・研究するため、学科、個人単位で実施していた地域連携事業の一元化を図るとともに、外部からの依頼に関する窓口としての機能も有する。また、地域連携事業については、運営委員会の検討を踏まえ、各学部等から選出された運営委員により、学科会議等において検討内容の共有に努めることとしている。

地域教育実践研究センターの業務内容

- ①地域教育実践研究活動に関する学内情報の一元管理に関すること
- ②地域教育実践研究活動の学内外への広報ならびに情報の提供に関すること
- ③地域教育実践研究活動に関する対外的な窓口機能に関すること
- ④地域教育実践研究活動の教育実践プログラムおよび研究プロジェクトに関すること
- ⑤地域教育実践研究活動に関する連絡調整に関すること
- ⑥学校インターンシップおよび学校ボランティアに関すること
- ⑦学外実習および介護等体験に関すること
- ⑧教員免許状更新講習に関すること
- ⑨その他地域教育実践研究活動に関すること

3. 外部評価

地域教育実践研究センターの取り組みについて、学外有識者による評価を行うことで自己点検・評価活動に反映させ、客観性・公平性を担保するため、外部評価機関として「地域教育実践研究センター外部評価委員会」（以下、「外部評価委員会」）を設置している（P35参照）。



Ⅲ. 平成29年度の地域連携事業実績一覧

事業	概要
<p>I 芦屋町との包括的連携事業</p>	<p>実践教育の場で社会の期待に応えられる学生の育成、および芦屋町の地域課題解決のため、包括協定を締結した(H28. 3. 29)。 本協定に基づき、連携会議を通じて以下の事業を実施した。</p> <p>1. さわらサミット推進プロジェクト 芦屋町では、ヤリイカに次ぐ水揚げがある鱈に着目したブランド化に取り組んでおり、その一貫として地域の機運醸成や人材育成を目的としたグルメイベント「さわらサミット」に取り組んでいる。昨年度に引き続き、本学の持つ様々なノウハウの活用や学生の参画により、これまででない地域イベント創出とブランド化を図るため、以下のとおり運営に携わった(H30. 2. 24~25)。 ①人間生活学科による鱈に関する学術パネルの展示および花(ピオラ)の配布 ②栄養学科による九女鱈ソーセージドックの開発および出店 ●派遣人数：学生15人/教職員10人</p> <p>2. 芦屋町課題発見プログラム 人間生活学科のカリキュラムの中で、学生が芦屋町における課題を発見し、解決策を企画のうえ実施するプログラムである。平成29年度は、課題解決における具体的内容を①広報、②イベントの企画・実施、③観光スポット、④環境整備に4分類し、イベントの企画および環境整備の観点から、さわらサミットにおいて、学生が育てた花(ピオラ)を会場に飾り付け、最終日に来場者へ配布した(H30. 2. 24~25)。</p> <p>3. 地域交流サロンにおける公開講座(硬筆教室) 芦屋町の地域交流の促進を図り、高齢者に学び直しの機会を提供するため、昨年度に引き続き、芦屋町の高齢者を対象に書道担当教員による公開講座(硬筆教室)を実施した(H30. 1. 28)。 ●参加人数：16人</p> <p>4. キャラバン隊による模擬保育【新規】 九州女子短期大学子ども健康学科の学生がキャラバン隊の活動として、芦屋町の保育所・幼稚園(3ヶ所)で模擬保育を実施した。 ①若葉保育所(H29. 8. 2) ●派遣学生数：9人 ②緑ヶ丘保育所(H29. 12. 13) ●派遣学生数：7人 ③愛生幼稚園(H29. 12. 20) ●派遣学生数：7人</p>
<p>II 北九州市との連携事業</p>	<p>本学と北九州市(子ども家庭局)で放課後児童クラブの振興を図るため、昨年度に引き続き、本学教員によるクラブ指導員を対象とした公開講座を2講座実施した。また、新規事業として、受講者数を拡大した大規模型公開講座を2講座実施した。</p> <p>1. 大規模型公開講座【新規】 ①講座名：明日からの支援に活かそう健康観察と応急処置 対 象：市内の放課後児童クラブ(H29. 5. 31) ●参加人数：94人 ②講座名：子どもの発達と児童期の関わり方 対 象：市内の放課後児童クラブ(H29. 11. 15) ●参加人数：496人</p> <p>2. 通常型公開講座 ①講座名：いろんな学年の子どもたちを楽しく遊ばせよう【領域③：活動・行事】 対 象：星の子・木屋瀬放課後児童クラブ(H30. 2. 27) ●参加人数：23人 ②講座名：不審者対応と護身術【領域④：衛生等】 対 象：永犬丸放課後児童クラブ(H30. 2. 23) ●参加人数：8人</p>
<p>III インターンシップ推進事業</p>	<p>1. 文系インターンシップ(COC+事業) 北九州市内の学生に対して、職業意識の醸成や勉強意欲の向上、および市内企業への就職促進を図るため、市内の大学、短期大学、企業、北九州商工会議所が連携・協力し、文系学生を対象に就労体験の場を提供する事業である。 ●派遣先企業：【夏季】(株)東横イン/(株)ドーワテクノス/(株)サンマーク等 他5社 【春季】(株)ハローデイ/山九(株)/福岡ひびき信用金庫等 他7社 ●派遣学生数：【夏季】延べ9人 【春季】延べ12人</p> <p>2. 課題解決型インターンシップ(COC+事業) 北九州商工会議所が実施主体となり、北九州市内の学生に社会的基礎力を身につけさせるため、地域産業や企業等の課題を題材とした課題解決型のインターンシップ事業である。 ●派遣学生数：1人</p> <p>3. (一社)九州インターンシップ推進協議会 短期仕事理解型インターンシップ【新規】 九州全体を見据えたインターンシップの推進と次代を担う若手の人材を育成するため、九州経済産業局や地元経済界、主要大学による産学官が協力して実施する事業である。 ●派遣先企業：【夏季】福岡法務局/春日市役所/(株)メーカーズ(K-cafe)等 他4社 【春季】福岡商工会議所/(株)タカミヤ/公益財団法人福岡県女性財団 ●派遣学生数：【夏季】8人 【春季】3人</p>

	事業	概要
Ⅲ	インターンシップ推進事業	<p>4. 山口県インターンシップ推進協議会インターンシップ【新規】 山口県の経済・社会の活性化に貢献するため、県内の高等教育機関等、事業所、経済団体行政機関が相互に連携・協力し、企業等へのインターンシップ事業を通じて、高い職業意識の育成を推進する事業である。 ●派遣先企業：山陽小野田市立中央図書館/㈱ストロベリーメディアアーツ ●派遣学生数：2人</p> <p>5. 短期集中課題解決型ワークショップ【新規】 「北九州・下関まなびとびあ」が実施主体となり、西鉄旅行株式会社より提示された課題「北九州・下関の魅力を伝えられる日帰りのツアー作成」を企画提案するワークショップである。 ●派遣学生数：3人</p>
Ⅳ	学生ボランティア事業	<p>【九州女子大学】</p> <p>1. グリーンティーチャー 取得免許毎の学生の実践力向上を図る事業について、「グリーンティーチャー」と命名し、グリーンとは、「緑の、未熟な、未経験の、元気のいい、若々しい、新鮮な」という意味を含んでいる。教育現場等において、園児や児童の指導補助・学習支援等を通し、学生の実践力を身につける本学独自の取り組み。 ●派遣学生数：幼稚園・保育所55人/小学校109人/芦屋校区土曜学び合いルーム32人/特別支援学校28人</p> <p>2. 病院・施設ボランティア 病院(病児保育)・施設(療育施設)において、多様な保育環境に対応できる保育者を育成する取り組み。 ●派遣学生数：13人</p> <p>3. 図書館ボランティア 図書館において、実務経験を通して司書資格に必要な知識と現場の役割等を理解する取り組み。 ●派遣学生数：公共図書館等14人/学校図書室15人</p> <p>【九州女子短期大学】</p> <p>4. 幼稚園・保育所・施設ボランティア 幼稚園・保育所・施設の行事等の多様な活動において、役割や仕事を実践・思考することで、職業人として必要な力を育成する取り組み。 ●派遣人数：132人</p> <p>5. キャラバン隊 九州女子短期大学の実践型教育として、幼稚園・保育所・施設・学校等に出向き、模擬保育や模擬授業を展開する取り組み。 ●派遣人数：延べ65人</p>
Ⅴ	その他の地域連携諸事業	<p>1. 北九州・下関まなびとびあ「低学年向けプログラムWG」への参加 学生の北九州・下関の定着促進を図る施策について、具体的に検討することを目的に4分野のワーキンググループが平成28年度に設置された。本学は、「低学年向けプログラムWG」に参加し、低学年向けプログラムの開発について意見交換を重ねた。平成29年度から「低学年向け北九州・下関地域インターンシップ」を実施することとなり、本学から1名の学生が参加した。また、本WGの合同会議において、人間生活学科の学生7名が「北九州で若者が考える」というテーマで、北九州市の雇用情勢や取り組みについて学習、議論、課題解決に取り組んだ成果を発表した。</p> <p>2. 北九州商工会議所との連携事業【新規】 北九州商工会議所会報誌「北商NEWS」の情報発信コーナー「キャンパス通信」に係る企画、取材、執筆等に取り組み、3回にわたって本学の記事を掲載した。 ●7月号/人間発達学科人間基礎学専攻 ●10月号/子ども健康学科 ●2月号/人間生活学科</p> <p>3. 北九州ゆめみらいワークへの出展 北九州ゆめみらいワークは、地元の魅力を知るキャリア教育のイベントとして、北九州市の主催により西日本総合展示場で開催された。本学は、「生活を科学&デザインする」をテーマに人間生活学科によるクッキーの食べ比べや、くるみボタン作りのハンドメイドを出展した (H29. 8. 25~26)。 ●派遣人数：学生4人/教職員2人 計6人</p>
Ⅵ	研究活動	<p>1. 学会報告：地域活性学会「第9回研究大会」【新規】 本学の地域教育実践研究活動をさらに発展させるため、平成28年度から「地域活性学会」に大学として加入している。平成29年度は、本学会の第9回研究大会が開催され、センター所長、センター副所長、事務職員、人間生活学科教員および芦屋町の職員が参加し、本学と芦屋町との連携事業について発表した (H29. 9. 1~3)。</p> <p>2. 共同研究事業：水巻町との災害食レシピ開発【新規】 本学と水巻町では、災害時の食材・調理器具が満足に準備できないという条件下で、簡単でおいしい食事のレシピを開発する共同研究事業に取り組んだ。栄養学科の学生が試作を重ね、計16品のレシピを開発し、このレシピを学生と水巻町の町民が調理する実践講習会を開催した (H29. 11. 11)。</p>

I. 芦屋町との包括的連携事業

平成28年3月29日、実践教育の場で社会の期待に応えられる学生を育成するため、芦屋町と包括的地域連携に関する協定を締結した。芦屋町と協定を締結することで、双方の持つ資源を結集し、行政や地域が抱える課題の解決、および社会性や実践力を身につけた学生の育成等、双方のメリットを効果的かつ最大限に活かすとともに、連携事業を推進する。

平成29年度は、さわらサミット推進プロジェクト、芦屋町課題発見プログラム、地域交流サロンにおける公開講座(硬筆教室)、キャラバン隊による模擬保育の4事業を中心に取り組んだ。

1. さわらサミット推進プロジェクト

(1) 概要

芦屋町の特産品の一つである鯖を使った料理開発・活用を通し、芦屋町のブランド化を図るため、現在のご当地グルメの時流を取り込み、グランプリ形式のイベント「さわらサミット」が昨年に引き続き開催された(平成30年2月24日、25日開催)。

今年で2年目となるさわらサミットのイベント運営等に本学も協力した。

(2) 実施内容

本学は、人間生活学科による学術パネルの作成・展示、花(ビオラ)の展示・配布、および栄養学科による「九女鯖ソーセージドック」の出店等を行った。当日は、約11,000人の来場があり、大盛況のうちにサミットを終えることができた。全体の提供食数は、両日合計で約8,200食となった。なお、九女鯖ソーセージドックの提供食数は、両日合計で425食となった。



学術パネルの展示
(歴史・食文化・漁法等)



課題発見プログラムの実施
(ビオラの展示・配布)



題字：古木誠彦 准教授



鯖ソーセージドックの提供
(企画・調理・販売)



今後の研究に向けて
(鯖ソーセージドックのインタビュー)

2. 芦屋町課題発見プログラム

(1) 概要

昨年度から、人間生活学科のカリキュラムの中で、学生の社会的基礎力育成のため、芦屋町をフィールドに課題発見プログラムを実施した。その結果、芦屋町における課題解決のための具体的内容は13種類(①～⑬)に集約され、これらはさらに、4分類項目に分けられた。

平成29年度は、「2. イベントの企画・実施」および「4. 観光のための環境整備」の観点から、学生による芦屋町と本学のPR企画をさώραサミットにおいて実施した。

具体的内容	分類項目
①はまゆう公園で行うイベントを企画し、SNSで発信する。(牛乳パックランタン作り) ②観光ポスターをいろんな場所に貼り、多くの人の目に入るようにする。(ポスターにQRコードを付け、芦屋町のホームページへ移動するようにする。) ③カフェを開いてくれる人を、SNSやポスターを使って募集し、補助金をPRする。 ④今ある補助金や施設、支援制度、住みやすい環境をSNSやポスター、地方メディアを利用し、発信PRする。 ⑤観光ツアーを開催する。 ⑥月事にイベントを企画して、年中観光ができるようにして人を集客する。 ⑦航空自衛隊やブルーインパルスファンをターゲットに、芦屋町を観光地としてPRする。 ⑧マジックミラートイレを取り入れ、観光名所にする。(設置費用約21万) ⑨はまゆう公園から徒歩5分のとと市場に名産物を置き、とと市場にも人が集まるようにする。 ⑩福岡県内のウェディングプランナー養成学校と連携して、ウェディングの写真撮影などに恋人の聖地を使用する。 ⑪カフェについては、イベントが無い日にも人を集客するために、出店する場所を考える。 ⑫恋人の聖地の辺り一面に季節の花を植え、撮影スポットになるようにする。 ⑬ボランティア団体(学生サークル)に依頼して、月1回の清掃活動をする。	1. 広報(SNS・ポスター) ①イベントの企画・発信(牛乳パックランタン作り) ②観光ポスター ③カフェの併設にあたって、オーナーを募集し、補助金をPR ④芦屋町の助成金や支援制度、および住みやすい環境のPR
	2. イベントの企画・実施 ①はまゆう公園(牛乳パックランタン作り) ⑤観光ツアー ⑥月事にイベントを企画 ⑦芦屋航空自衛隊(ブルーインパルス)
	3. 観光スポット ⑦芦屋航空自衛隊(ブルーインパルス) ⑧マジックミラートイレ ⑨とと市場(芦屋町の名産物) ⑩恋人の聖地(ウェディングプランナーと連携し、ウェディングフォトのスポットにする)
	4. 観光のための環境整備 ⑧マジックミラートイレの設置 ⑨とと市場に芦屋町の名産物を置く ⑪カフェの併設 ⑫恋人の聖地(花を植え、撮影スポットにする) ⑬清掃活動

(2) 実施内容

①企画の趣旨

さώραサミットの会場に花(ビオラ*)を飾ることで、華やかな空間を形成する。また、そのビオラをさώραサミットの来場者に無料配布する。学生の育てたビオラを通じてさώραサミットの思い出を形に残すとともに、町の紹介カードを併せて渡すことで、芦屋町のPRと本学との繋がりを認知してもらう。さらには、次年度以降のさώραサミットの来場に繋げる。

*ビオラ/育ちが早く開花時期が長いので、初心者でも育てやすい。花言葉が「信頼」であることから、本学と芦屋町の信頼関係の意味を込めてビオラを選定した。

②成果

さώραサミット当日は、学術のパネル付近を学生が育てた150鉢のビオラを飾りつけた。初日から、多数の来場者が展示しているビオラに興味を惹かれている様子が見られた。最終日は、正午からビオラの配布を開始し、1時間で全てのビオラが手元から無くなった。この結果、ビオラが繋いだ芦屋町と本学の架け橋は、多くの来場者へPRすることができた。



3. 地域交流サロンにおける公開講座(硬筆教室)

(1) 概要

「地域交流サロン」は、芦屋町の高齢者が身近な場所に集い、体操や趣味、食事、おしゃべり等を通じて、生きがい作りや介護予防のため運営している。そのサロンの高齢者を対象に学び直しの機会を提供するため、昨年度に引き続き、本学教員による公開講座(硬筆教室)を実施した。

(2) 実施内容

タイトル	地域サロン硬筆教室	
担当教員	九州女子大学 共通教育機構 准教授 大迫正一	
実施日時	平成30年1月28日(日) 10:00~12:00	
実施場所	花美坂区地域交流サロン	
参加者	高齢者16人	
目的	日本文学に親しみながら、手書き文字を楽しむことで、通常の「硬筆講座」だけでは学べない、「筆読」という新しい営みを体験してもらう。	
概要	「百人一首」について知り、書いてみる。また、漢字についての豆知識も紹介する。	
準備	①テキスト「えんぴつで百人一首」、②硬筆用鉛筆(4B)、③消しゴム	
研修の展開		
	主な研修内容	指導・支援上の留意点
	漢字の「人」や「大」に関する、字源と同じ系統の文字について概説する。 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> • 常用漢字の中でも、日常頻繁に使う漢字を使って概説する。 「人」…「比」「北」「旅」「従」等 「大」…「立」「並」等 発展して、関連の漢字についても紹介する。「地」等
	百人一首について概説する。 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> • 百人一首の成立ち、作者、内容について説明する。(専門的すぎないように) • 藤原定家との関係を概説する。 • 「ちはやふる」を話題にする。
	百人一首を実際に音読し、解釈を知り、書いてみる。 (60分)	<ul style="list-style-type: none"> • 硬さの異なる鉛筆(B、4B、10B)で書き比べ、受講者にとって書きやすい鉛筆を試してもらう。 • 百人一首の筆読は、一首につき20分程度で行う。 (音読、解釈で15分、揮毫5分) • 三首を目安に筆読する。



講話①(漢字の字源)



講話②(百人一首の概説)



説明(百人一首の解釈)



実習(なぞり書き)

参加者の声

研修の満足度：大満足88%・満足12%・普通0%・やや期待外れ0%・期待外れ0%

- 日常から多く使っている文字、色々な成立ちがあることが良く分かった。
- 字の成立ちからの説明、とても楽しく聞くことができました。また、興味もわいてきました。
- 文字の書き方、鉛筆の持ち方、孫にも教えることができ、大変参考になった講座でありました。
- 60数年歩んできて、知らないことばかりで先生の講座を聞いて大変勉強になりました。
- 百人一首の成立ち、内容を学び、和歌の内容を知ることができました。
- 今回学んだことを今後、老人会等での論文の作成に活かしたいと思います。
- 毎日少し読み書きして、手、頭のトレーニングにして勉強したいと思います。

担当教員の感想

参加者全員がとても熱心でした。漢字の字源や経緯といった日常必要のない話しでも大変熱心に聴かれ、積極的に質問も出るほどで、安心しました。また百人一首についても、大きな声で音読し、熱心に内容も聴いていました。また、揮毫の際は丁寧に鉛筆で書いておられ、講座の担当者として、本の執筆者として充実感がありました。このような状況はおそらく若いときに身につけた教養のなせる業であり、教養教育の必要性を改めて考える機会ともなりました。

4. キャラバン隊による模擬保育

(1) 概要

キャラバン隊は、九州女子短期大学子ども健康学科の実践型教育として、幼稚園・保育所・施設・学校等において、模擬保育・模擬授業を展開する活動である。この活動を通じて、学生の「創造性」・「意欲」・「研究心」・「人間関係力」・「問題解決能力」等、総合的な「人間力」の育成を目的としている。キャラバン隊には、原則、子ども健康学科の1年生全員が所属し、専門性と人間性を身につけるために必要なことは何かを考察している。また、希望者かつ優れた学生については、「スーパーキャラバン隊」として他の学生の模範となり、中心的に活動に取り組んでいる。この度、新規事業として、芦屋町の保育所・幼稚園(3ヶ所)においてキャラバン隊の活動を実施した。

(2) 実施内容

場 所	日 程	内 容	所要時間
若葉保育所	平成29年8月2日(水)	①ボディパーカッション ②自己紹介 ③手遊び	60分
緑ヶ丘保育所	平成29年12月13日(水)	④季節の歌(ペープサート) ⑤手洗い指導 ⑥体操	
愛生幼稚園	平成29年12月20日(水)	⑦ボードシアター・大型絵本 ⑧プレゼント渡し ⑨終わりのことば	

学生のコメント	
①学んだこと	<ul style="list-style-type: none"> ・時間配分で時間が余りそうなときに、アドリブを入れたり踊りを教える時間を増やしたりと、臨機応変に対応することが保育現場では求められていると学んだ。 ・子どもたちが楽しめるようにするには、まず自分たちが楽しむことが大切だと感じた。 ・子どもたちは必死に真似しようとするため、声の大きさやスピード、笑顔、一つひとつの動きを丁寧に等、分かりやすいように工夫する必要があると感じた。 ・同じ内容で3ヶ所の保育所や幼稚園で発表したが、子どもたちの反応や雰囲気も全ての園で異なり、言葉がけや表情、進行を工夫して子どもたちが緊張せずに心から楽しめる環境作りが大切だと感じた。
②気付いたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちとの受け答え等があまりできなかったが、笑顔で前に立つことができた。 ・初めは緊張したが、笑顔で手遊びやダンス、ボードシアターをすることができた。もう少し大きな声で話したり、歌ったりした方が良かった。 ・最初は緊張して失敗ばかりであったが、回を重ねるごとに子どもたちへの声かけ、頷きの仕方や一緒に踊ることの楽しさを知り、とても充実した活動ができた。 ・与えられた役を果たすことで精一杯になっていたため、もっと状況に応じた臨機応変な対応が必要だと感じた。
③今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの声を聞き、状況に合った対応の仕方等を学ぶことができたので、子どもたちの発達段階に合わせた伝える力を高め、就職先で活かしたい。 ・表情を豊かに色々変化がつけられるようになれば子どもたちも楽しんでくれると感じたので、機会があればまた挑戦したい。 ・表現するうえで、一人ではできないこともあるため、保育士同士で協力して行っていきたい。 ・今回の経験を活かし、就職先では子どもたちが楽しくなるような声かけを心がけたい。

(3) 各園における模擬保育の様子

ボディパーカッション、季節の歌(ペープサート)

緑ヶ丘保育所



愛生幼稚園



手洗い指導、体操

愛生幼稚園



若葉保育所



ボードシアター、大型絵本

若葉保育所



緑ヶ丘保育所



プレゼント渡し

緑ヶ丘保育所



愛生幼稚園



II. 北九州市との連携事業

平成25年9月1日に北九州市と本学で「北九州市放課後児童クラブの振興に関する連携」について協定を締結した。平成27年度連携事業開始にあたっては、放課後児童クラブの要望を把握するため、児童クラブの指導員を対象にアンケート調査を行った。このアンケート調査の結果から、4領域(①生活、②遊び、③活動・行事、④衛生等)について公開講座の要望があった。平成27年度、および平成28年度は以下のとおり公開講座を実施した。

平成29年度は、これまで実施していない③活動・行事(活動)、および④衛生等(不審者対応)の公開講座を通常型公開講座として実施した。また、新規事業として、北九州市からの要望で大規模型公開講座を2講座実施した。

1. 大規模型公開講座の実績

講座名	参加人数	担当教員	実施年度
明日からの支援に活かそう健康観察と応急処置	市内指導員94人	人間発達学科 春高 裕美	H29年度
子どもの発達と児童期の関わり方	市内指導員496人	人間発達学科 蒲原 路明	H29年度

2. 通常型公開講座の実績

【領域①：生活】

内容	要望	講座名・実施クラブ	担当教員	実施年度
生活指導	<ul style="list-style-type: none"> 高学年の発達に応じた独自の生活指導の研修があれば良い。 児童と指導員との対応の仕方。例えば、問題児との関わり方等、具体策について勉強してみたいと思う。 	子どもの発達特性を活かした生活集団づくり 萩原学童保育クラブ 参加人数:指導員12人	人間発達学科 神代 明 藤川 一俊	H27年度
発達障害	<ul style="list-style-type: none"> 発達障害やボーダーラインの子どもたちに関する研修があれば参加したい。 発達障害を持った児童に対する指導方法、落ちつきのない児童(グレーゾーン)の対応、声かけ等 	発達障害の子どもの特性と基本的理解 けやき児童クラブ 参加人数:指導員13人	人間発達学科 石黒 栄亀	H28年度
保護者クレーム対応	<ul style="list-style-type: none"> 児童同士のトラブルにおける保護者からのクレーム対応 			

【領域②：遊び】

内容	要望	講座名・実施クラブ	担当教員	実施年度
遊び(レク)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの興味をひく遊びや低学年用、高学年用等、年齢に合った遊び 遊びのスペースが狭いため、限られた環境に適した遊びの指導、小学校高学年児童向けのもの 	高学年における集団遊び 医学生児童クラブ 参加人数:指導員7人/児童7人	人間発達学科 藤川 一俊	H27年度

【領域③：活動・行事】

内 容	要望	講座名・実施クラブ	担当教員	実施年度
ダンス・手遊び	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み等にいくつかのクラスに分けて、ダンス、制作、その他希望する活動が一斉にできればともありがたい。 ダンス、演奏等の活動はできていないと感じているため、楽しんで体を動かす活動を教えてあげて欲しい。 	体を動かすことを楽しもう！ ～リズムにのって楽しく～ 折尾児童館内放課後児童クラブ 参加人数：指導員11人/児童22人	人間発達学科 青山 優子	H27年度
		リズム表現を通した子どもの心と 体への働きかけ 曽根東校区放課後児童クラブ 参加人数：指導員15人	子ども健康学科 津山 美紀	H28年度
工作・美術	<ul style="list-style-type: none"> 全学年が満足する夏休みの工作で毎年悩んでいる。 科学的な実験や、動くおもちゃの制作等、子どもの興味、好奇心をそそるような体験行事があると良い。 	制作体験(工作・美術)～実用的な ものから遊べる制作物まで～ 西小倉なかよし学童クラブ 参加人数：指導員14人	子ども健康学科 富永 剛	H28年度
活動	<ul style="list-style-type: none"> 職員の啓もう もっと1～6年生が気軽にできたり、夏に取り組める例を知りたい。 	いろんな学年の子どもたちを楽しく遊ばせよう 星の子・木屋瀬放課後児童クラブ 参加人数：指導員23人	人間発達学科 萬徳 紀之	H29年度

【領域④：衛生等】

内 容	要望	講座名・実施クラブ	担当教員	実施年度
応急処置	<ul style="list-style-type: none"> ハチにさされた、大量の鼻血、けいれん等の応急処置の仕方。 インフルエンザ等で隔離が困難であるため、このようなケースの対応について。 	やってみよう！ 緊急対応と応急処置 鴨生田放課後児童クラブ 参加人数：指導員9人	人間発達学科 春高 裕美	H27年度
		応急処置～実際にやってみよう、 緊急対応と応急処置～ 松ヶ江北校区放課後児童クラブ 参加人数：指導員13人	人間発達学科 春高 裕美	H28年度
おやつ	<ul style="list-style-type: none"> 児童に多い疾病、食物アレルギーに関する対処方法等 簡単に時間と手間をかけずにできる手作りおやつのレシピ紹介 			
アレルギー	<ul style="list-style-type: none"> アナフィラキシーショックの対応(エピペン使用)の研修 アレルギーの「完全除去」「製造ラインから除く」等、基礎的な知識とおやつの工夫を知りたい。 	応急処置～実際にやってみよう、 緊急対応と応急処置～ 松ヶ江北校区放課後児童クラブ 参加人数：指導員13人	人間発達学科 春高 裕美	H28年度
不審者対応	<ul style="list-style-type: none"> 不審者が侵入した際の子どもの誘導、カラーボールを準備して投げる等 女性でも子どもたちを守る護身術等。他に救急対応、不審者対応等 	不審者対応と護身術 永大丸放課後児童クラブ 参加人数：指導員8人	人間発達学科 神代 明 子ども健康学科 松崎 守利	H29年度

3. 公開講座の実施内容

(1) 大規模型講座

タイトル	明日からの支援に活かそう健康観察と応急処置	
担当教員	九州女子大学 人間科学部人間発達学科(人間発達専攻) 講師 春高裕美	
実施日時	平成29年5月31日(水) 9:30~11:30	
実施場所	ウェルとばた 多目的ホール	
参加者	指導員94人	
目的	基本的な健康観察の方法や、緊急時対応について学ぶ。	
概要	放課後児童クラブの指導員に求められる緊急時の役割と対処方法を分かりやすく講義する。加えて、日常的に起こる怪我や病気の応急処置について、事例を通して演習する。	
準備	①配付資料、②動きやすい服装で参加	
研修の展開		
	主な研修内容	指導・支援上の留意点
	<p>1. 誰でもできる基本的な健康観察</p> <p>2. 緊急時のいろは</p> <p style="text-align: right;">(20分)</p>	<p>1. 誰でもできる基本的な健康観察 様子をみて良いのか、明日受診なのか、それとも即受診なのか、見極めるポイントを学ぶ。</p> <p>2. 緊急時のいろは 緊急事態が発生した際の指導員の動き、保護者への連絡のタイミングや留意点について学ぶ。</p>
	<p>3. 日常保育で起こりやすい事例検討</p> <p>①事例A：プロレスごっこで頭部を打つ ②事例B：急な高熱。隔離する？ ③事例C：けいれん発生。どう動く？</p> <p style="text-align: right;">(60分)</p>	<p>3. 事例検討</p> <p>①頭部外傷の対応の実際と、見落としてはならない観察ポイントを学ぶ。 ②インフルエンザを含む、急性感染症が発生した際の指導員の動きや、ひとつの空間を有効利用した隔離方法を学ぶ。 ③けいれん等の緊急対応について、観察ポイントと冷静に対応する心構えを学ぶ。</p>
	<p>4. 事例に応じた演習</p> <p>①事例D(演習)： 鉄棒から転落着地に失敗！ 骨折したかも…どう固定する？ ②事例E(演習)： ノロウイルスが大流行 嘔吐物の正しい処理は？</p> <p style="text-align: right;">(25分)</p>	<p>4. 事例に応じた演習</p> <p>①骨折の固定についてデモンストレーションを行う。 ②嘔吐物の処理について実践を行う。(全員)</p>



講話(緊急時のいろは)



日常保育で起こりやすい事例検討



演習①(骨折の固定方法)



演習②(嘔吐物の処理方法)

参加者の声

研修の満足度：大満足77%・満足23%・普通0%・やや期待外れ0%・期待外れ0%

- 一つひとつ事例を挙げて、詳しく対処方法とその理由を説明していただき分かりやすかった。
- 高熱の判断等、間違った考え方も多々あったので、受診の見極めの重要性が勉強になった。
- 今までにAEDの使用方法等、即人命に関わる事態を想定した研修内容は受講していたが、日頃起こりやすい事象に対する処置を学ぶことは初めてだったので良かった。
- 応急処置のマニュアル作成を予定していたので大変役に立った。
- 健康観察のポイント(食・寝・遊)・緊急時のいろはを教えていただき勉強になった。
- 全職員対象に講座をしていただきたい。

担当教員の感想

当日は100名近い指導員の皆さんが、北九州市全域から早朝にも関わらずお集まりいただき大変熱心に取り組みましておられました。

今回は一般応急処置に加えて嘔吐物の処理方法を全員で実践してみました。何よりも印象的でしたのは、講演後の質問です。長蛇の列ができ、随分お待たせしてしまいましたが、質問内容は多岐にわたり、お一人お一人が現場での保健・医療に関する実践に苦慮されていることが分かりました。今後は、指導員の先生方と共に問題解決に取り組むことができればと思います。私自身も大変勉強になりました。

(2) 大規模型講座

タイトル	子どもの発達と児童期の関わり方
担当教員	九州女子大学 人間科学部人間発達学科(人間発達学専攻) 特任教授 蒲原路明
実施日時	平成29年11月15日(水) 9:30~11:30
実施場所	ウェルとばた 大ホール
参加者	指導員496人
目的	放課後児童クラブにおいて、特に高学年児童(小学4年生~6年生)への有効な関わり方や、生活指導等、子どもの実態把握、児童理解を通して支援の方法等について学ぶ。
概要	放課後児童クラブでの児童への関わり方について講義する。まず、学習指導要領等の改訂から、「今、学校に求められているもの」を理解する。次に、「乳幼児期・児童期における心身の発達の特徴」から、子どもへの関わり方を考える。最後に「児童への有効な支援方法」を紹介し、児童への接し方、関わり方の具体的方法について学ぶ。
準備	①配付資料、②PC、③スクリーン
研修の展開	
主な研修内容	指導・支援上の留意点
<p>1. はじめに</p> <p>○今、学校に求められているもの</p> <p>(25分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今、子どもたちに求められているものを中央教育審議会答申や学習指導要領等の改訂から理解する。 人格の完成を目指す。(生きる力、豊かな心、健やかな体の育成)
<p>2. 乳幼児期・児童期の特徴</p> <p>「乳幼児期・児童期における心身の発達の特徴」</p> <p>○放課後児童クラブでの課題</p> <p>○乳幼児期の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> 0~3歳「自己肯定感」を育む 3~6歳「しつけ・生活習慣」の指導可能 <p>○児童期の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> 7歳~ 「知的好奇心」がでてくる <p>(30分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 放課後児童クラブで課題となっていることを紹介し、指導で悩んでいることを共通理解する。(つい叱ってしまう、関わり方の悩み等) 乳幼児期、児童期の発達上の特徴を学び、どんな指導が可能かを考え「自己肯定感」を育む時期、しつけ・生活習慣を身につけさせる時期、知的好奇心が出てくる時期を理解し、それぞれの年齢に合った指導が必要であることを考える。 <自己肯定感を育むことの重要性>
<p>3. 児童への有効な支援方法について</p> <p>○児童への有効な支援方法について学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> 縦割りを活かした生活集団づくりグループ作り、リーダーの育成、約束指導 子どもへの関わり、声かけの仕方「自己肯定感」を高める関わり方、声かけ <p>(35分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活のグループを作り、高学年児童をリーダーとして育成する方法、約束指導の仕方を学び、縦割りを活かした集団作りについて理解する。(リーダーを褒めて伸ばす。) 高学年児童への関わり方や声のかけ方を紹介し、「自己肯定感」を高めることの重要性を理解し、実践に活かせるようにする。 <高学年への憧れ、「ありがとう」「助かったよ」「うれしいよ」の声かけ>



講話①(はじめに)



講話②(幼児期・児童期の特徴)



講話③(児童への有効な支援方法)



質疑応答

参加者の声

研修の満足度：大満足38%・満足57%・普通5%・やや期待外れ0%・期待外れ0%

- 自己肯定感の低下に繋がらないように声かけ、叱り方を十分に気を配って接していきたい。
- 子どもへの関わりは、声かけやほめることに心を配っていますが、褒め方や言葉選びに今後一層工夫していきたいと思います。特に、価値付けの言葉をたくさん子どもたちにかけてあげられるようになりたいと思います。
- 高学年の子どもたちに対する言葉がけや対応を、自己肯定できるような、認められるような方法が取れるようにしていきたいと思います。子どもの主体性を引き出せるようにしたい。

担当教員の感想

今回、放課後児童クラブ指導員等研修会で講話をさせていただき、大変勉強になりました。約500名の参加、大きな会場で、講話の形の研修会でしたが、指導員の方々が熱心に話しに耳を傾けてくださり、子どもたちへの指導に対する情熱をひしひしと感じました。幼稚園や小学校では、同じ年齢の子どもたちをクラス単位で指導していきます。発達や成長の様子が著しく異なる小学校1年生から6年生までの異学年の指導を行うことは、決して簡単なことではないと思います。子どもたちの成長のために、日々課題と向き合い、熱心に指導されていることが会場の雰囲気から伝わってまいりました。とてもうれしく思います。無限の可能性を秘めている子どもたちの健やかな成長を願って、今後もさらに小学校との連携や協力を進めてご活躍されることを祈念しております。

(1) 通常型講座【領域③：活動・行事】

タイトル	いろいろな学年の子どもたちを楽しく遊ばせよう		
領域	活動・行事	内 容	活動
担当教員	九州女子大学 人間科学部人間発達学科(人間発達学専攻) 特任教授 萬徳紀之		
実施日時	平成30年2月27日(火) 10:00~11:30		
実施場所	星の子放課後児童クラブおよび木屋瀬放課後児童クラブ		
参加者	指導員23人		
目的	放課後児童クラブでは異年齢、異学年の子どもたちが一緒に遊ぶことが多い。特に夏休み等、高学年をリーダーとしながら、低学年から高学年までの児童が仲良く、楽しく遊べるゲームや運動等を体験する。		
概要	夏休み等の長期休業日に、全学年の児童を遊ばせる際の指導のポイント(特に、高学年をリーダーとして位置付けながら)について分かりやすく講義する。また、体育館での簡単な運動や、新聞紙や紙と鉛筆等、身近にあるものを使ったゲーム等を実際に体験し、ゲームの楽しさやゲームをさせる上での注意事項等を学ぶ。		
準備	①配付資料、②動きやすい服装で参加、③ハサミ・のり等、④筆記用具		
研修の展開			
主な研修内容		指導・支援上の留意点	
1. 夏休みの集団遊びのポイントについて ①グループ作りのポイント ②遊びのルール作りのポイント ③体育館での遊び(運動系)について ④室内での遊び(身の回りのものを使って)について (30分)		指導員の方から、これまでの経験上、グループ作りやリーダー決めで困ったことがあれば出してもらい、学校ではどのような点に配慮するかを学ぶ。 体育館等での遊びの際に起こりうる安全面や児童間のトラブルについての未然防止や対応の仕方について考える。	
2. 体育館での遊び 夏休みの集団遊びについては、熱中症等の心配があるため、激しい運動にならない遊びを体験しながら学ぶ。 ①しっぽ取りゲーム ②集団ジャンプ遊び ③キャッチ等 (30分)		1年生から6年生までの子どもたちが、同じように体を動かせること。その際、体の大きさや運動能力の差によって、個人差が出ないような遊びやルールの大切さを考える。遊びの中で、チームワークの大切さにも気付かせるように指導することの重要性を学ぶ。	
3. 室内での遊び 雨天時における室内での集団遊びで、異学年の子どもたちが楽しく参加できる内容について体験する。 ①お話しビンゴ ②新聞紙取りじゃんけん ③CM歌合戦等 (30分)		あまり道具を使わず、低学年の児童も参加しやすく、しかも準備やルールも難しくないような遊びを体験し、さらに遊びの内容が広がるような工夫を考える。	



講話①(児童に対する立ち位置)



講話②(児童のグループ作り)



演習①(キャッチ)



演習②(新聞紙取りじゃんけん)

参加者の声

研修の満足度：大満足68%・満足32%・普通0%・やや期待外れ0%・期待外れ0%

- ・講師の先生が元小学校の校長先生でしたので、経験を踏まえた話しをして下さり、とても分かりやすかったです。
- ・グループ作りのポイントや、手本をさせる子どもの選び方等は参考になりました。
- ・学校の先生とクラブ指導員の立ち位置、言葉のチョイスと使い方、ゲーム等、全てにおいて、改めて考えさせられました。
- ・異年齢の子どもたちが、同じ理解で参加できるゲームを実際に動きながら教えていただいたので、とても分かりやすくて楽しかったです。
- ・「叱る」と「怒る」の違いのお話も印象深く、今後の子どもたちとの人間関係を作るためにも本当に大切なことだと思いました。

担当教員の感想

今回は、学校での子どもの様子と放課後児童クラブでの子どもの様子は大きく違うので、教員という立場ではない指導員の皆さんが、どのように子どもたちに関わるかという点にポイントを置いて話しをしました。

指導員の皆さん方は、メモを取りながら、とても熱心に話しを聞いてくださり、実際にゲームをする際も和気あいあいと楽しく活動し、かなり盛り上がっていました。異年齢の子どもたちを仲良く遊ばせるために、グループ作りの留意点や、ルール作りの工夫点等についてもお話ししました。今回の研修が、今後、子どもたちへの活動の一助となれば幸いに思います。

(2) 通常型講座【領域④：衛生等】

タイトル	不審者対応と護身術		
領域	衛生等	内 容	不審者対応
担当教員	九州女子大学 人間科学部人間発達学科(人間発達学専攻) 特任教授 神代明 九州女子短期大学 子ども健康学科 講師 松崎守利		
実施日時	平成30年2月23日(金) 13:00~14:30		
実施場所	永犬丸放課後児童クラブ		
参加者	指導員8人		
目的	不審者が侵入したときの対応の仕方と子どもたちを守る護身術について学ぶ		
概要	不審者侵入に備えての日常の取り組み(役割分担や体制作り、日常点検、巡回、関係者との連携等)や不審者侵入時の対応の仕方について講義を通して学ぶ。さらには、女性でもできる子どもを守る護身術について実技を通して学ぶ。		
準備	①プロジェクター、②PC、③スクリーン、④マット		
研修の展開			
主な研修内容		指導・支援上の留意点	
1. 不審者侵入対策について ①日常の取り組み ・日常の点検 (児童、活動場所、防犯用具等) ・マニュアルの作成と更新 ・児童への指導と職員の訓練 ・隣近所への協力依頼や声かけ ②クラブ内外の巡回 ・始まる前、活動中、門や扉の入口等 ③保護者、地域、関係機関との連携 ・保護者会、学童だより、子ども110番 市民センター、警察等 (20分)		○不審者侵入を想定し、子どもの安全確保のために整えておく日常の取り組みについて学ぶ。 ・不審者対策の先進的な取り組みの例 マニュアル、役割分担、防犯用具 実際の訓練等 ○子どもの安全を確保する巡回と役割分担を 確実にを行う。 ・早期発見、早期対応 ○日常的に連携を図っていく取り組みを行う。 ・情報交換、連絡体制、不審者情報の入 手と入手後の対応	
2. 不審者が侵入したときの対応 ①危害が及ばない場合 ②危害が加えられそう場合 (20分)		○侵入させないことに最大限努力する。 ・来訪者に声かけで確認 ・正当な理由があるのかないのか ・2通りの場合を想定して対応を考える ・定期的な訓練等	
3. 不審者に遭遇したときの咄嗟の対応 不審者が侵入したときに、どのような対応が必要になるのか体験する。また、不審者に拘束されたときの離脱方法について実技を通して学ぶ。 ①防御に利用できる道具 ②自らを守る身のこなし ③不審者に接近された場合や拘束された 時の対応(護身方法) (45分)		不審者に遭遇したときに、どのような道具を使うことが適切なのか、状況に応じた取り扱 い等を説明したうえで、実際の使用方法を体験してもら う。また、どのように道具を使用すれば効果的なのかを説明する。 護身方法については、どのような技術が必要か、関節の機能を理解してもらいながら、受講者の体力に応じて説明する。	



講話(不審者侵入の対策)



実技①(道具を使用した不審者対策)



実技②(自らを守る身のこなし)



公開講座を終えて

参加者の声

研修の満足度：大満足38%・満足62%・普通0%・やや期待外れ0%・期待外れ0%

- ・今まで喧嘩や怪我を重点的に子どもを見守ってきましたが、最近の社会情勢から不審者から子どもを守る必要性を強く感じました。
- ・危機管理マニュアル、チェックリストの必要性とそれらを共有することの重要性を改めて感じました。
- ・不審者への「声かけ」、扉の「施錠」が大きな抑止力になることを学びました。
- ・これまで避難訓練等は、受講したことがあるが、不審者対応は初めてでしたので、内容も含めて新鮮でした。
- ・護身用具の実際の使い方をレクチャーしてもらいとても有意義でした。
- ・今回初めて護身術の体験を行うことができた。

担当教員の感想

放課後児童クラブの指導員の皆様は、とても熱心に参加され、その真剣なまなざしに、子どもの安全を守るという強い思いが伝わってきました。不審者対策の講話終了後、「子どもを守るという気持ちをしっかり持って、マニュアルを作成し、訓練できちんと対応力を身につけていきたい」という声を伺い、この講座の目的を十分に達成できたと実感できました。同時にわたくしも指導員の皆様の子どもの子どもへの熱い思いの中から多くのことを学ばせていただきました。

Ⅲ. インターンシップ推進事業

インターンシップについては、日本再興戦略においてその有効性が再認識され、「質」および「量」の向上が求められている。本学においても、国の政策に基づきインターンシップの需要が高まることを考慮し、地元企業を中心としたインターンシップ推進事業に取り組むことで、学生のインターンシップ参加促進を図っている。

平成29年度は、北九州市と地元大学との連携による文部科学省補助事業「地(知)の拠点による地方創生事業(COC+)」の文系インターンシップ、および課題解決型インターンシップをはじめ、様々なインターンシップを推進し、多数の学生を派遣した。

1. インターンシップの種類

文系インターンシップ(COC+事業)
北九州市内の学生に対して、職業意識の醸成や勉強意欲の向上、および市内企業への就職促進を図るため、市内の大学、短期大学、企業、北九州商工会議所が連携・協力し、文系学生を対象に就労体験の場を提供する事業である。
課題解決型インターンシップ(COC+事業)
北九州商工会議所が実施主体となり、北九州市内の学生に社会的基礎力を身につけさせるため、地域産業や企業等の課題を題材とした課題解決型のインターンシップ事業である。
(一社)九州インターンシップ推進協議会 短期仕事理解型インターンシップ
九州全体を見据えたインターンシップの推進と次代を担う若手の人材を育成するため、九州経済産業局や地元経済界、主要大学による産学官が協力して実施する事業である。
山口県インターンシップ推進協議会インターンシップ
山口県の経済・社会の活性化に貢献するため、県内の高等教育機関等、事業所、経済団体、行政機関が相互に連携・協力し、企業等へのインターンシップ事業を通じて、高い職業意識の育成を推進する事業である。
短期集中課題解決型ワークショップ
「北九州・下関まなびとびあ」が実施主体となり、西鉄旅行株式会社より提示された課題「北九州・下関の魅力を伝えられる日帰りのツアー作成」を企画提案するワークショップである。

2. インターンシップ参加スケジュール

インターンシップに参加する学生に対して、本学独自の事前研修を行い、社会で必要なスキルを事前に身につけたうえで企業へ派遣するフォロー体制を整えている。また、インターンシップ終了後は、職員による事后面談を行い、インターンシップ時の評価をフィードバックし、その後の就職活動に繋げている。インターンシップ参加のスケジュールは、以下のとおりである。



3. 各インターンシップの実績

(1) 文系インターンシップ(COC+事業)

①事業概要

文系学生を対象に地元中小企業の魅力を発信するため、北九州商工会議所と北九州市が市内の大学、短期大学と連携し、地元中小企業における就労体験を地方創生事業として実施しているインターンシップである。

参加大学・人数	九州女子大学:21人 九州共立大学:13人 北九州市立大学:33人 九州国際大学:5人 西南女学院大学:52人 西日本工業大学:30人 福岡工業大学:2人 福岡山公立大学:1人 東筑紫短期大学:5人 福岡女学院大学:2人 山口県立大学:4人 関西大学:1人 計:延べ169人
企業数	参加企業数:夏季42社/春季61社 受入企業数:夏季32社/春季37社
実施期間	夏季:平成29年8月～9月 春季:平成30年2月

②本学の実施状況

	受け入れ先	日程	日数	実習内容	人数
夏季	(株)木輪	8/7～11	4日	パンの製造・販売	1
	(株)レディスハトヤ	8/21～25	5日	業務全般(接客等)	2
	(株)サンマークNasse編集部 北九州支社	8/21～25	5日	撮影同行、企画会議参加、ネットでの情報収集等	1
	明治安田生命保険(相)	8/28～9/1	5日	コンサルティング業務体験、グループワーク	2
	(株)ルネ	8/29～31	3日	生産管理部、小売部の業務体験	1
	(株)ドーワテクノス	9/7～13	5日	営業職体験	1
	(株)東横イン	8/21～25	5日	清掃研修、ユニバーサルサービス、接客体験	1
計(延べ人数)					9
春季	(株)木輪	2/19～22	3日	パンの製造・販売	1
	(株)ルネ	2/8～9	2日	生産管理部、小売部の業務体験	1
	(株)ハローデイ	2/7	1日	グループワーク等	1
	福岡ひびき信用金庫	2/13～14	2日	営業店実習等	1
	(株)アトル	2/6	1日	商品管理実習	1
	(株)ポーラ	2/20～23	4日	リクルートイベントの参加、ショップ体験等	1
	山九(株)プラント事業部	2/14～16	3日	事業説明、工場見学等	2
	特定非営利法人 里山を考える会	2/20	1日	事業説明、職場見学	2
	日本生命保険(相) 北九州支社	2/20	1日	コンサルティング業務体験、グループワーク	1
	(株)山口フィナンシャルグループ	2/14	1日	グループワーク等	1
計(延べ人数)					12
合計(延べ人数)					21

学生のコメント	<ul style="list-style-type: none"> 人と話すことが好きなので、インターンシップを通じてそれを活かせる営業職に就きたいと考えることもできました。また、営業職に必要な資質等も教えていただきました。
受け入れ先のコメント	<ul style="list-style-type: none"> 自分のやりたいことに的を絞った質問ができ、理解を深めていたようです。情報収集では、自分なりの分析を丁寧に記入しており、非常に分かりやすかったです。



(2) 課題解決型インターンシップ(COC+事業)

①事業概要

北九州市では、若者の定着を政策目標に掲げ、地方創生の取り組みを多岐に渡り展開している。そこで、北九州商工会議所が若者をターゲットにした効果的な地域の魅力発信するため、「若者のこころに響く北九州市の魅力発見・魅力発信」をテーマにその魅力をどう効果的に若者に伝えられるかを企画した。平成29年度の実習テーマは、そのための素案作りを市内複数大学の学生が共同で取り組むものであった。

参加大学・人数	九州女子大学:1人 北九州市立大学:1人 九州国際大学:1人 西南女学院大学:2人 西日本工業大学:1人	計6人
実施時期	平成29年8月21日～8月30日	

②実施内容

プログラム	1日目：オリエンテーション 2日目：北九州市役所訪問 3日目：地元企業・進出企業訪問 4日目：バスハイクプラン作成 5日目：北九州ゆめみらいワーク見学・報告書作成着手 6日目：バスハイク・報告書作成着手 7日目：報告書の作成・報告会準備 8日目：報告会準備・報告会
学生のコメント	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身のスキルを客観視することができ、スキルアップにもつながった。 社会で必要とされる積極性や発言する能力等、このインターンシップで確実に力をつけることができた。



(3) (一社)九州インターンシップ推進協議会 短期仕事理解型インターンシップ

①事業概要

30の加盟大学、行政および産業界から約540社の団体が所属し、産学官の連携によるインターンシップの推進を行う地域コンソーシアムである。本学では、実習期間が1～2週間で仕事理解・体験型となる「短期仕事理解型インターンシップ」に参画した。

②本学の実施状況

	受入先	日程	日数	実習内容	人数
夏季	福岡法務局	8/7～14	5日	不動産登記事務、商業・法人登記事務、人権擁護事務等	1
	(株)ナフコ	8/15～21	6日	基本業務の補助	1
	春日市役所 地域づくり課	8/16～22	6日	自治会、地区公民館活動に係る事務	1
	(株)タケノ	8/20～24 9/4～5	6日	商品開発	1
	(一社)学生就職支援協会	8/22～24	3日	就勝ゼミナール事業部運営全般、学生フォロー	1
	(株)メーカーズ(K-café)	8/24～28	5日	接客、プレゼン	1
	日本生命保険(相) 北九州支社	9/4～8	5日	ファイナンシャルプランニング	1
	有田電器情報システム(株)	9/4～13	8日	グループワーク(企画作成)	1
	計				8
春季	福岡商工会議所	2/13～26	10日	一般事務(資料作成、セミナー受付、巡回同行等)	1
	(株)タカミヤ	2/7～11	5日	店内商品出し等	1
	公益財団法人 福岡県女性財団	2/14～26	10日	事業実施の補助、季刊誌の取材、アンケート入力等	1
	計				3
	合計				11

学生のコメント	<ul style="list-style-type: none"> 自分の信念、意思を持って行動することが大事だと分かりました。また、しっかり調べないとその業界や職業がどういうことをしているのか分からないため、業界研究に力を入れて、就職活動に取り組みたいと思いました。
受け入れ先のコメント	<ul style="list-style-type: none"> 協調性を活かし、グループワークは順調に進めていました。自分から発信するよりも意見を聞いて、それを具体的に進めていく力があるので、今後もっと積極的になることでさらに強みを伸ばせると思います。

(4) 山口県インターンシップ推進協議会インターンシップ

①事業概要

山口県の高等教育機関等、事業所、経済団体、行政機関が相互に連携・協力し、インターンシップ事業を通じて高い職業意識の育成を円滑かつ効率的に推進し、高等教育全体の質的向上に資するとともに、経済・社会の活性化に貢献することを目的として取り組んでいる。

②本学の実施状況

	受入先	日程	日数	実習内容	人数
	山陽小野田市立中央図書館	8/8～13	5日	図書館業務に関わる実習	1
	(株)ストロベリーメディアアーツ	8/17～23	7日	イベント機材搬入、撤去等	1
	合計				2

学生のコメント	<ul style="list-style-type: none"> これから何かをPRしたいときは、人が興味を湧くような工夫をその対象の年齢に合わせて考えると良いと思いました。また、電話対応業務を行い、正しい言葉遣い等を学ぶことができました。
受け入れ先のコメント	<ul style="list-style-type: none"> とても意欲的に取り組んでくれました。カウンター業務も笑顔で、利用者の方に対応できていたと思います。

(5) 短期集中課題解決型ワークショップ

①事業概要

西鉄旅行株式会社より提示された「北九州・下関の魅力を伝えられる日帰りのツアー作成」という課題に対し、設定された予算内で目をひくタイトルと中身で対象者をいかに楽しませるかを目標に、他大学の学生と共同で資料を読み込み、実際に現場に足を運ぶ等、テーマに沿った内容で旅行行程の企画に取り組むものであった。

参加大学・人数	九州女子大学:3人 九州共立大学:1人 北九州市立大学:7人 計11人
実施時期	平成29年9月4日～9月8日

②実施内容

プログラム	<p>1日目：オリエンテーション/西鉄旅行(株)のレクチャー等 2日目：課題解決グループワーク、資料作成、プレゼン練習 3日目：課題解決グループワーク、資料作成、プレゼン練習 4日目：課題解決グループワーク、資料作成、プレゼン練習 5日目：プレゼンテーション</p>
学生のコメント	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に討論することに少しずつだが自信をもつことができました。また、就職の採用試験等で、グループ討論が必要になったときも落ち着いて臨める力がついたと思います 今回のような企画立案やプレゼンテーションを行うことは、普段なかなか経験できることではありません。これらの力は、社会に出るとどのような職場でも求められる力だと思いますので、グループワークや何も知らない人たちへ分かりやすく思いを伝えるという技術をより磨いていきたいと思っています。



IV. 学生ボランティア事業

本学は、幼児教育者や学校教員等を目指す学生に現場経験を積ませるため、グリーンティーチャー等として、幼稚園・保育所、小学校、特別支援学校等に数多くの学生を派遣している。また、ボランティアとして、病院施設、図書館等にも学生を派遣している。

平成29年度は、以下のとおり学生を派遣した。

九州女子大学

1. グリーンティーチャー

取得免許毎の学生の実践力向上を図る事業について、「グリーンティーチャー」と命名し、グリーンとは、「緑の、未熟な、未経験の、元気のいい、若々しい、新鮮な」という意味を含んでいる。教育現場等において、園児や児童の指導補助・学習支援等を通し、学生の実践力を身につける本学独自の取り組み。

(1) 幼稚園・保育所

派遣先	人数
九州女子大学附属自由ヶ丘幼稚園	19
九州女子大学附属折尾幼稚園	9
さんろくこどもえん	5
本城西幼稚園	2
浅川保育園	6
栄美保育園	7
赤間保育園	5
若松コスモス保育所	1
新宮あおぞら保育園	1
合計	55



(2) 小学校

	派遣先	人数
北九州市	門司区 大里柳小学校:1人	1
	小倉南区 守恒小学校:1人 広徳小学校:1人 城野小学校:1人 企救丘小学校:1人	4
	小倉北区 日明小学校:3人 井堀小学校:1人 泉台小学校:1人	5
	戸畑区 天籟寺小学校:1人 あやめが丘小学校:1人	2
	若松区 青葉小学校:3人	3
	八幡東区 皿倉小学校:2人	2
	八幡西区 浅川小学校:5人 光貞小学校:1人 上津役小学校:1人 赤坂小学校:2人 永犬丸小学校:1人 折尾西小学校:15人 木屋瀬小学校:1人 穴生小学校:2人 則松小学校:7人 折尾東小学校:19人 青山小学校:1人 八児小学校:1人 本城小学校:3人 医生丘小学校:3人 萩原小学校:1人 黒崎中央小学校:3人	66
	計	83
	中間市 中間小学校:1人 中間北小学校:4人 中間西小学校:4人 中間南小学校:1人 底井野小学校:2人	12
	計	12
その他 頃末小学校:2人 飯塚小学校:1人 延永小学校:1人 春日小学校:1人 剣北小学校:1人 幸袋小学校:1人 豊津小学校:1人 東月隈小学校:1人 御笠の森小学校:1人 椎田小学校:1人 三毛門小学校:1人 山の田小学校:1人 下関市公立小学校:1人	14	
計	14	
合計	109	

(3) 芦屋校区土曜学び合いルーム

派遣先	人数
中央公民館	13
芦屋東公民館	13
山鹿公民館	6
合計	32

(4) 特別支援学校

派遣先	人数
北九州市立八幡西特別支援学校	4
北九州市立八幡特別支援学校	6
北九州市立小倉総合特別支援学校	2
北九州市立小池特別支援学校	9
北九州市立小倉南特別支援学校	7
合計	28

【学生のコメント】

- 1年時は座学が多く、現場の流れを理解しにくい部分があります。しかし、ボランティアに参加することで、授業での先生方の言葉が想像しやすくなります。また、自分が今どれほどのスキルを持っているのかを知ることができ、今後の実習等に繋がってきたいです。
- 園によっては絵本の読み聞かせや手遊び等を実践させていただきました。実践後、先生方からアドバイスをいただき、自分の改善点を見つけることができました。また子どもとの関わり方や先生が子どもにどのような言葉をかけているかを学ぶことができ、良い経験になりました。

2. 病院・施設ボランティア

病院(病児保育)・施設(療育施設)において、多様な保育環境に対応できる保育者を育成する取り組み。

派遣先	人数
産業医科大学病院(小児病棟)	5
中間市 親子広場リンク	1
北九州乳児院	5
よしだ小児科医院(病児保育室)	2
合計	13

【学生のコメント】

- 小児病棟では、遊びや活動計画以外にも子どもが落ち着いて治療に臨める環境作りの様子を観察できました。病児保育室では、排泄・食事等の援助を実践しながら、症状や怪我によって異なる支援の仕方を教えていただきました。病気の子どもの保育について、学びの多いボランティア活動でした。

3. 図書館ボランティア

図書館において、実務経験を通して司書資格に必要な知識と現場の役割等を理解する取り組み。

(1) 公共図書館等

派遣先	人数
北九州市立八幡西図書館	3
北九州市立八幡図書館	1
北九州市立若松図書館島郷分館	2
リコリス(宮若市立図書館)	2
飯塚市立図書館中央図書館	2
行橋市立図書館	1
ひびきのキャンパス図書館	1
そねっと(北九州市小倉南区)	2
合計	14

【学生のコメント】

- 図書館業務は、図書館司書をより理解する機会になったと思います。リーフレット折りやイベント等で使用する小物の準備、図書の整理等を体験することができ、現場の空気に触れることができました。また、利用者との対応の中でコミュニケーション力をもっと伸ばす必要があると感じました。



(2) 学校図書館

派遣先	人数
自由ヶ丘高等学校図書室	14
福岡県立小倉東高等学校図書室	1
合計	15

九州女子短期大学

4. 幼稚園・保育所・施設ボランティア

幼稚園・保育所・施設の行事等の多様な活動において、役割や仕事を実践・思考することで、職業人として必要な力を育成する取り組み。

派遣先	人数
鞍手ゆたかの里	9
障害児支援施設 あおぼの里	20
北九州市立若松ひまわり学園	7
九州女子大学附属自由ヶ丘幼稚園	24
九州女子大学附属折尾幼稚園	31
九州女子大学附属鞍手幼稚園	35
フルーツバスケット(障がい児余暇活動)	6
合計	132



5. キャラバン隊

九州女子短期大学の実践型教育として、幼稚園・保育所・施設・学校等に出向き、模擬保育や模擬授業を展開する取り組み。

派遣先	人数
福岡県立折尾高等学校	7
福岡県立直方高等学校	5
飯塚高等学校	3
若葉保育所(芦屋町)	9
緑ヶ丘保育所(芦屋町)	7
愛生幼稚園(芦屋町)	7
久保保育園(古賀市)	10
川崎町立幼稚園(田川郡)	7
宗方保育園(大分県)	10
合計(延べ人数)	65

【学生のコメント】

- 保育所の行事に参加しましたが、実際の保育士の姿から、用具の準備をはじめ、子どもたちの気分によって想定外の事態に臨機応変に対応できることが大事だと学びました。
- 子どもたちの前に立って発表することができ、とても良い経験を積むことができました。子どもたちの声を聴き、状況に合った場の展開等を学ぶことができました。

V. その他の地域連携諸事業

1. 北九州・下関まなびとびあ「低学年向けプログラムWG」への参加

本件は、「北九州・下関まなびとびあ」を中心に地方創生モデルを構築することを目的とした文部科学省の補助事業(COC+)の取り組みの一つである。産学官の多様な視点から、学生の北九州・下関の定着促進を図る施策について、具体的に検討することを目的に4分野のワーキンググループ(調査研究WG、教育プログラムWG、低学年向けプログラムWG、就活生向けプログラムWG)が平成28年度に設置された。本学は、「低学年向けプログラムWG」に参加し、地域人材力の養成のため、学生が地域への興味や関心を持てる低学年向けプログラムの開発について意見交換を重ねた。

この結果、平成29年度から「低学年向け北九州・下関地域インターンシップ」(見学・体験・課題解決型併用)を実施することとなり、本学から1名の学生が参加した。

また、本WGの合同会議において、人間生活学科の学生7名が「北九州で若者が考える」というテーマで、北九州市の雇用情勢や取り組みについて学習、議論、課題解決に取り組んだ成果を発表した。



2. 北九州商工会議所との連携事業

北九州商工会議所の会報誌「北商NEWS」内の情報発信コーナー「キャンパス通信」において、本学学生による教育研究活動の紹介記事を3回にわたって掲載した。

本会報誌は、北九州市内の企業約8,500社、行政機関や関連団体400事業所に配布されるもので、平成29年度から連携協定を締結している大学が持ち回りにより記事を掲載している。本学は、人間生活学科、人間発達学科(人間基礎学専攻)、短期大学の子ども健康学科の3学科を取り上げ、それぞれの特徴や活動内容等について、学生目線で紹介した。

掲載号	紹介学科	掲載タイトル
7月号	人間発達学科 人間基礎学専攻	社会で役立つ力とは・・・ インターンシップ体験
10月号	子ども健康学科	教育現場に出向き実践力磨く 保育園などへ「キャラバン隊」
2月号	人間生活学科	課題解決型学習を実践して考える 北九州のキャリアスタイルプラン



3. 北九州ゆめみらいワークへの出展

平成29年8月25日、26日の2日間、西日本総合展示場(小倉北区)において、北九州市主催による「北九州ゆめみらいワーク」が開催され、本学からは人間生活学科の学生が出展した。このイベントは、北九州地域の小・中学生、高校生、大学生、および保護者・教員等を対象に、地元企業の仕事の魅力、専門学校等の専門職ならではの難しさ、また、大学・短期大学の面白さや学びの重要性について伝え、自分の将来や社会との関わり方について考える機会を提供している。2日間で企業・団体は約80社、大学・短期大学・専門学校等は約40校が参加し、それぞれの趣向を凝らした魅力をアピールした。

本学のブースでは、人間生活学科の紹介パネルを展示し、本学科における学び、地域連携活動の取り組み、卒業後の進路等を伝えた。また、体験コーナーでは、「生活を科学&デザインする」をテーマに、くるみボタン作り、3種の砂糖を使用したクッキーの食べ比べ(官能検査体験)を実施し、主に女子高校生を中心に呼び込んだ。



VI. 研究活動

1. 学会報告：地域活性学会「第9回研究大会」

(1) 概要

本学の地域教育実践研究活動をさらに発展させるため、他大学等の地域連携事業に関する研究や事例の情報等を得ることを目的に、平成28年度から「地域活性学会」の団体会員に大学として加入している。

平成29年度は、本学会の第9回研究大会が平成29年9月1日から3日の間に開催され、本学からは地域教育実践研究センター所長、センター副所長、事務職員、人間生活学科教員および芦屋町の職員が参加し、本学と芦屋町との連携事業について発表した。

(2) 地域活性学会「第9回研究大会」の基本情報

テーマ	「課題先進地における地方創生への挑戦」
日程	平成29年9月1日(金)～3日(日)
会場	島根県立大学 浜田キャンパス
共催	島根県浜田市、島根県立大学
参加者	3日間で約400名
発表者	160名の研究者・実務者(過去最高)

(3) 本学の発表内容

テーマ	大学と自治体との包括的地域連携協定に基づく連携事業 －九州女子大学・九州女子短期大学と芦屋町との初年度の試み－
<p>本学は、自治体・団体特別発表(第13会場)において、平成28年度の芦屋町との連携事業の実績を紹介するとともに、大学と自治体が組織的に連携したことを発表した。特に連携する事業内容を連携会議において逐次協議し、実行に移したこと、および芦屋町をフィールドに実践教育を展開したことを中心に紹介した。※発表原稿はP36参照</p>	
	
島根県立大学浜田キャンパス	事例発表の様子

(4) 感想・今後の展望

他の学会参加校・自治体・者については、大学等の研究者や実務担当者が殆どであり、本学のように大学単位での組織的な参加は他に見られず、組織として地域連携に関わることの重要性を再確認した。

今回、基調講演・シンポジウム・他大学の研究発表等では、経済的発展・住民の自発性向上等が認められる地域活性化の成功事例、地域活性化の分析方法等の活動報告や研究発表があった。これらの発表を通して、地域連携を成功させるためには、活性化を求める自治体と連携する大学等の思いや期待が一致することと、住民の理解を得ることが重要であると感じた。また、「地域活性化」は研究テーマとして発展の可能性があると改めて感じた。

今後は学会で知り得た情報を基に自治体等と連携事業を地道に継続すること、ならびに地域連携事業に関する理論やその方法論を探索し研究することで、今後の事業の発展・学生の実践教育および研究活動に繋げたい。

2. 共同研究事業：水巻町との災害食レシピ開発

(1) 概要

水巻町では、遠賀川(一級河川)の氾濫等による水害が考えられ、住民の防災意識の向上を一つの課題としている。このことから、各家庭における災害時に備えた食料の備蓄を促すため、本学と共同で備蓄食料や少ない調理器具を活用し、簡単に温かくおいしい食事のレシピを開発することとした。

(2) 研究内容

栄養学科の学生が水巻町で備蓄しているアルファ化米や缶詰、家庭にある常備食品を使用し、水やガスを節約してカセットコンロ1台で調理できるレシピを考案した。備蓄食品だけでは不足する野菜等を補い、災害時でも簡単に温かくて美味しい食事を提供するものである。

(3) 開発した災害食

計16品目

主食	①サバみそ焼きおにぎり、②炊き込みご飯、③野菜飯、④鯖飯、⑤チャーハン、⑥リゾット、⑦手巻き寿司、⑧おやき、⑨照り焼きチキンピザ
主菜	⑩鯖ボール、⑪切り干し大根のカリカリあんかけ
副菜	⑫切り干し大根のマヨネーズあえ、⑬ケチャップ炒め、⑭ナムル
汁物	⑮すいとん、⑯野菜スープ



備蓄食品



レシピの料理例

(4) 研究の経緯

実施項目	内容
①アンケート調査 (平成29年7月～8月)	栄養学科の学生が各家庭の災害時に備えた食料の備蓄状況について、水巻町の小学校の保護者を対象にアンケート調査を行った。この調査結果から、備蓄の必要性を感じる世帯の割合は90%を超えていたが、実際に備蓄している割合は47%であった。備蓄していない理由として「どんなものを買って良いかわからない」という意見が約60%であった。 アンケート配布件数1,000世帯/回収件数581世帯
②試食会 (平成29年9月25日)	計16品のレシピ案を開発した。試作の料理を水巻町役場の職員が試食し、改良案等の意見を徴した。
③実践講習会 (平成29年11月11日)	水巻町の各家庭における災害食に対する意識を向上させるため、栄養学科の学生が主体となり「災害食レシピ共同研究事業実践講習会」を実施した。本講習会には、水巻町長をはじめ、女性防火・防災クラブの会員30名が参加した。試食時に各学生が担当したレシピの開発に至った経緯や調理のポイント等を説明した。実際に調理を行った参加者からは、好評をいただき、講習会は盛会のうちに終えることができた。また、TNC(テレビ西日本)、および西日本新聞の取材を受け、各メディアで紹介された。
④水巻町広報誌へのレシピ掲載 (平成30年1月～)	水巻町が発行する広報誌に災害食レシピを1品ずつ掲載することとし、平成30年1月号から掲載を開始した。

実践講習会の様子



福原学長の挨拶



学生と水巻町民による調理実習



学生による料理の説明



講習会を終えて

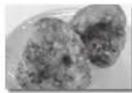
水巻町の広報誌掲載記事

災害食レシピ

九州女子大学と共同開発した、備蓄食料でもおいしく作れるレシピをご紹介します。

●問い合わせ 役場庶務係 ☎ 201-4321

サバみそ 焼きおにぎり



材料（4人分）

アルファ米…200g、水…260cc、サバみその缶詰…200g、油…小さじ4、粒粒かつおだし…40g、みりん…小さじ4、うま味調味料…少々、ごま油…小さじ1

作り方

- ①ボウルにアルファ米、油、粒粒かつおだし、みりんを入れ、熱湯に浸してアルファ米を戻す。
- ②①にサバみその缶詰とうま味調味料を混ぜ込み、おにぎりを作る。
- ③フライパンにごま油を敷き、②の両面を焼く。

災害食レシピ

九州女子大学と共同開発した、備蓄食料でもおいしく作れるレシピをご紹介します。

●問い合わせ 役場庶務係 ☎ 201-4321

切り干し大根の マヨネーズあえ



●材料（4人分）

切り干し大根…20g、マヨネーズ…大さじ3杯、からし…小さじ1、青ノリ…少々、ゴマ…大さじ1、塩…少々、コショウ…少々

●作り方

- ①切り干し大根を水で戻した後、水気を切る。
- ②切り干し大根を煮ひの材料であえる。

●一ロメモ

切り干し大根は、保存期間が長いものが多く、備蓄食料に向いています。また、備蓄食料で不足しがちな食物繊維を多く含んでいるので、体の調子を整える役目もあります。切り干し大根以外にもワカメやヒジキなども食物繊維を多く含んでいます。家庭でもぜひ備蓄してみてください。

災害食レシピ

九州女子大学と共同開発した、備蓄食料でもおいしく作れるレシピをご紹介します。

●問い合わせ 役場庶務係 ☎ 201-4321

すいとん



（九州女子大学提供）

●材料（4人分）

タケノコとコンジンの凍物の缶詰…160g、小麦粉…80g、水（団子用）…40cc、ごま油…小さじ1、水…800cc、顆粒かつおだし…12g、鹽口しょうゆ…大さじ1、酒…小さじ1

●作り方

- ①小麦粉、水（団子用）、ごま油を混ぜて、こねて1時間寝かせる。
- ②鍋で水を沸騰させ、①の生地を手でちぎって入れ、浮いてくるまで3分程度加熱する。
- ③②に缶詰と顆粒かつおだしを加え、鹽口しょうゆと酒で味を調える。

●一ロメモ

災害時でも、カセットコンロと小さな鍋があれば、作るができます。1月7日の遠賀郡消防合同出初式では、来場者向けに炊き出しを行い、おいしいと大好評でした。

(5) 今後の展開

学生が開発したレシピをレシピ集(冊子)にまとめ、水巻町民各家庭への配布、および水巻町ホームページへの掲載を予定している。また、レシピ集の配布後、各家庭の食料の備蓄状況について再度アンケート調査を実施し、現行のレシピ改善、ターゲット(幼児、高齢者等)を絞ったレシピを開発することを計画している。

I. 平成29年度 学外実習・介護等体験の実績

【九州女子大学】

(人数)

実習名	学科・専攻名	学校種別等	1年	2年	3年	4年	
教育実習	人間生活学科	中学校 高等学校	/			20	
	栄養学科	小学校				2	
	人間発達学科 人間発達学専攻	幼稚園	/		71	61	
		小学校			62	51	
		特別支援学校	/			40	
	人間発達学科 人間基礎学専攻	中学校 高等学校				29	
保育実習	人間発達学科 人間発達学専攻	保育所	/	63	73	3	
		児童養護施設等	/			63	
臨地実習	栄養学科	福祉施設・保健所	/		85	/	
		小学校			85		
		病院			85		
介護等体験	人間生活学科	特別支援学校 社会福祉施設	/		19	/	
	人間発達学科 人間発達学専攻				62		2
	人間発達学科 人間基礎学専攻				19		/

【九州女子短期大学】

(人数)

実習名	学科・課程名	学校種別等	1年	2年
教育実習	子ども健康学科 幼稚園教諭養成課程	幼稚園	/	74
	子ども健康学科 養護教諭養成課程	小学校・中学校 高等学校		69
	専攻科 子ども健康学専攻	小学校・中学校 高等学校		28
保育実習	子ども健康学科 幼稚園教諭養成課程	保育所	71	65
		児童養護施設等	73	33
	子ども健康学科 養護教諭養成課程	保育所	35	19
		児童養護施設等	37	47
臨床実習	子ども健康学科 養護教諭養成課程	病院・福祉施設	/	69

II. 教員免許状更新講習の受講者推移(平成21年度～平成29年度)

	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
講座数	15	16	20	20	17	17	19	21	19
受講者数	155	838	1,484	1,426	1,098	1,193	1,046	1,406	1,255



III. 平成30年度 教員免許状更新講習の開設予定講座(8/4～8/10)

日程	領域	講座名	講師名	定員数	講座名	講師名	定員数
8/4 (土)	必修	①教育の最新事情(幼・小)	大迫(秀)・鎌田 黒田・日高	140	②教育の最新事情(中・高・養)	大迫(秀)・鎌田 黒田・日高	90
8/5 (日)	選択 必修	③学校を巡る近年状況変化、 危機管理上の課題(幼・小)	宮本・大江	140	④学校を巡る近年状況変化、 危機管理上の課題 (中・高・特支)	神代・宮本	90
8/7 (火)	選択	⑤「生きる力」を育む表現・ 造形遊び	谷口	50	⑥教室の中の宮沢賢治	荻原	50
		⑦発達障害児の理解と支援	堀江・石黒・阪木	72	⑧文系で学ぶICT(情報通信技 術)活用	宮本	55
8/8 (水)	選択	⑨古典に親しむー源氏物語の 世界ー	荻原	50	⑩体験的な学習を導入した食 育について	穂須海	30
		⑪表現講座	中村・青山	60	⑫文系でまなぶプログラミン グ入門	宮本・城	55
8/9 (木)	選択	⑬「筆えんぴつ」による手書 き文字教育の試み	大迫(正)	140	⑭小児生活習慣病を予防する 日本食の力	巴・崎山・白石 山本・新富	50
		⑮英語コミュニケーションの 基礎	タケル	50	⑯漢字のはなし	古木	30
8/10 (金)	選択	⑰「筆えんぴつ」による手書 き文字教育の試み	大迫(正)	140	⑱児童・生徒のこころのあり かたと教育相談による支援	友納	55
		⑲社会保険を主題材にしたAL による教材作成	田中(由)	40	⑳色弱者擬似体験から学ぶ	森永	15

参考資料

I. 地域教育実践研究センターの各種委員会構成員

地域教育実践研究センター運営委員会	
古城 和子	地域教育実践研究センター 所長
澤田小百合	地域教育実践研究センター 副所長
宮本 和典	教務部長 共通教育機構 教授
巴 美樹	学生部長 家政学部 栄養学科 教授
西田真紀子	家政学部 人間生活学科 准教授
神代 明	人間科学部 人間発達学科 特任教授
佐方はるみ	人間科学部 人間発達学科 特任教授
春高 裕美	人間科学部 人間発達学科 講師
梅本 貴豊	人間科学部 人間発達学科 講師
河原木有二	共通教育機構 准教授
若松 信爾	共通教育機構 准教授
細井 陽子	共通教育機構 講師
津山 美紀	子ども健康学科 教授
植田 武志	事務局長
重田 勝弘	教務・入試課長
松田裕次郎	地域教育実践研究センター 主事

地域教育実践研究センター外部評価委員会	
古城 和子	学内委員 地域教育実践研究センター 所長
澤田小百合	学内委員 地域教育実践研究センター 副所長
本郷 宣昭	学外委員 芦屋町 企画政策課企画係 係長
小田 聡	学外委員 北九州商工会議所 産業振興部 課長
藏内 保明	学外委員 北九州市立八幡小学校 校長
大塚 友江	学外委員 北九州市小倉社会事業協会 理事
桑原 正樹	学外委員 協同組合折尾商連 事務局長
西田真紀子	学内委員 家政学部 人間生活学科 准教授
佐方はるみ	学内委員 人間科学部 人間発達学科 特任教授
河原木有二	学内委員 共通教育機構 准教授
津山 美紀	学内委員 子ども健康学科 教授
植田 武志	学内委員 事務局長

II. 地域教育実践研究センターの運営委員会等年間実績

日程	学内委員会等	外部との会議等
4月		19日 第1回北九州市との連携会議
5月	25日 第1回地域教育実践研究センター運営委員会	
6月		7日 第1回芦屋町との連携会議 27日 第1回北九州・下関まなびとびあ低学年向けWG(COC+)
7月		
8月		22日 第2回芦屋町との連携会議 1～27日 第2回北九州・下関まなびとびあ低学年向けWG(COC+) <small>※メール会議</small>
9月	28日 第2回地域教育実践研究センター運営委員会	
10月	12日 第1回地域教育実践研究センター外部評価委員会	
11月		
12月	14日 第3回地域教育実践研究センター運営委員会	8日 第2回北九州市との連携会議 13日 第3回芦屋町との連携会議
1月	18日 第4回地域教育実践研究センター運営委員会 <small>※メール会議</small>	
2月	27日 第2回地域教育実践研究センター外部評価委員会	
3月	28日 第5回地域教育実践研究センター運営委員会	29日 北九州・下関まなびとびあ低学年・就活生向けWG合同会議(COC+)

Ⅲ. 地域教育実践研究センター外部評価委員会報告

平成29年度は、地域教育実践研究センター外部評価委員会を2回開催した。第1回委員会(平成29年10月12日開催)では、平成28年度の連携事業の実績を報告し、平成29年度の連携事業の進捗を共有・確認した。第2回委員会(平成30年2月27日開催)では、平成29年度の事業実績を報告し、平成30年度の事業計画を共有した。本委員会の中で、以下のとおり学外委員から意見を徴した。

学外委員	意見	
芦屋町	第1回	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度同様、貴学と密接に連携事業に取り組んでおり、今後も継続して連携会議および連携事業を実施していきたい。
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決型の事業について、町・住民・学生の思いが交錯することが考えられるため、どのようにまとめるかが今後の課題である。平成30年度は事業内容の充実を図っていきたい。
北九州商工会議所	第1回	<ul style="list-style-type: none"> 北九州商工会議所会報誌「北商NEWS」は、平成29年度から、大学を取り上げた企画「キャンパス通信」の掲載を初めて試みた。本件に関して貴学にもご協力いただいているが、本会報誌は北九州市の企業8,500社に配布しているため、情報発信等を目的に活用してほしい。
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> 文系インターンシップについては、企業からの評価表等を貴学にフィードバックし、相互で情報を共有しながら次年度も取り組んでいきたい。また、企業と各大学から課題解決型のインターンシップが多く求められており、次年度は参加者の増加、内容の充実、議論の活発化を計画しているため、貴学からも数多くの学生の参加にご協力いただきたい。 北九州商工会議所会報誌「北商NEWS」において、次年度も貴学の取り組みをPRしていきたい。
北九州市立小学校	第1回	<ul style="list-style-type: none"> 学校で「働き方改革」という目標を掲げ、学校に対するイメージの向上に取り組んでいる。ボランティア等で派遣された貴学の学生が充実感を持てるような実習現場にしていきたいと考えている。
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> 学校現場は人手不足のため、貴学のグリーンティーチャーは貴重な存在である。また、貴学の学生は礼儀正しく、児童に熱心に関わろうとしてくれる姿が見受けられる。今後も積極的に学生に参加していただきたい。
北九州市小倉社会事業協会	第1回	<ul style="list-style-type: none"> 近年、北九州市の保育所への就職者が減少傾向であるため、指導法や待遇面を改善するよう取り組んでいる。
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> 貴学の研究活動で災害食レシピの開発について取り組まれていたが、乳幼児や高齢者に特化したものがあれば、施設等で災害時に役立つと感じた。
協同組合折尾商連	第1回	<ul style="list-style-type: none"> 様々なボランティアに貴学の学生が参加しているが、積極的な学生とそうでない学生の差が感じられる。
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> 自分で考えて行動できる学生もいるが、指示を受けないと行動できない学生もいる。折尾商連をはじめ、地域の方々に社会人に必要なスキル等を貴学の学生へ助言していきたい。



IV. 地域活性学会「第9回研究大会」発表要旨

大学と自治体との包括的地域連携協定に基づく連携事業

—九州女子大学・九州女子短期大学と芦屋町との初年度の試み—

○古城和子(九州女子大学・九州女子短期大学)・澤田小百合(九州女子大学・九州女子短期大学)・松田裕次郎(九州女子大学・九州女子短期大学)・本郷宣昭(芦屋町役場)

Keyword : 連携事業、地域課題解決、実践教育

【背景】

九州女子大学・九州女子短期大学(表1以下、「本学」)では、「地域に根ざした実践教育を展開する大学」として、平成27年6月1日に地域教育実践研究センター(以下、「本センター」)を設置した。本センターでは、「学生の質保証の強化」、「大学の教育・研究機能の活用」および「地域との共生」の3本柱を軸として、本学の地域貢献(型)による大学創りに取り組んでいる(図1)。

本学は、北九州市や福岡市を始め、様々な団体(北九州商工会議所、協同組合折尾商連等)と協定を締結し、連携事業を推進している。



図1 地域教育実践研究センターの役割

芦屋町(表2)は、本学に隣接する市町のひとつで、響灘二面した自然豊かな海岸線や芦屋釜に代表される歴史文化に富んだ町である。豊富な資源を活かした観光施策のほか、住民との協働のまちづくりといった政策実現のため、大学の知見やノウハウ、学生の若いパワーを活かした事業の推進、町民との交流による地域づくりを推進しようとしていた。このような中、双方のネットワークから協議がはじまり、平成28年3月29日に「包括的地域連携に関する協定」を締結した。

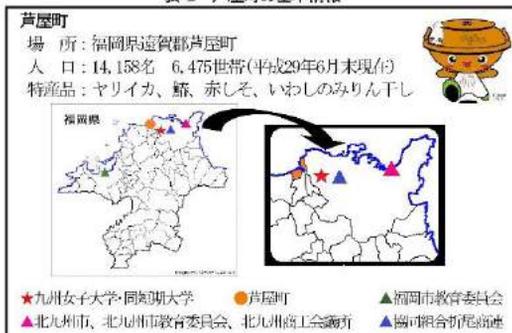
本報では、初年度にも関わらず密接に事業展開できたことから、本学と芦屋町との連携事業について報告する。

表1 九州女子大学・同短期大学の基本情報

学部・学科(専攻)		取得可能免許・資格(抜粋)
九州女子大学	家政学部 人間生活学科	中・高教諭一種免許「家庭」 二級建築士受験資格
	栄養学科	栄養士免許 管理栄養士国家試験受験資格
	人間科学学部 人間発達学科(人間発達学専攻)	幼稚園教諭一種免許 小学校教諭一種免許 特別支援学校一種免許 保育士
人間科学学部 人間発達学科(人間発達学専攻)	中学校教諭一種免許「国語」 高等学校教諭一種免許「国語」「書道」 図書館司書	
		1,226名
同短期大学	子ども健康学科	幼稚園教諭二種免許 養護教諭二種免許 保育士
	専攻科	養護教諭一種免許
		345名

※1 人間発達学科(人間発達学専攻)の学生が、小学生を対象とした「十層字の谷」ワークの学習サポートとしてボランティアを行っている。

表2 芦屋町の基本情報



【連携会議】

本学と芦屋町は、連携事業を推進するため定期的な連携会議を開催し、表3に見られるように、逐次協議を行ってきた。さらに、個々の案件についての具体的連絡等は適宜取り合った。

表3 連携会議内容

回	月日	協議内容・事業番号
第1回	4/13	芦屋町課題発見プログラムについて
第2回	5/18	本学と芦屋町の連携事業について
第3回	6/10	本学と芦屋町の連携事業について
第4回	7/6	芦屋町の地域再生マネージャー事業概要 さわらサミット開催概要 九州女子大学への支援依頼について
第5回	8/9	さわらサミット開催に伴う依頼事項
		芦屋町課題発見プログラムについて
第6回	9/7	壁面構成プロジェクトについて
		さわらサミットの開催状況について
第7回	11/25	壁面構成プロジェクトについて
		地域交流サロンでの機運教室について
第8回	12/7	さわらサミットの開催状況について
		その他の連携事業の進捗について
第9回	3/30	平成29年度の連携事業の内容確認
出席者	本学：本センター所長、副所長、事務職員 芦屋町：芦屋町企画政策課課長、係長、職員	

※2 芦屋町の地域再生に取り組み町として、一般財団法人地域総合整備財団(地域再生マネージャー事業)の支援を受けていることから、一般財団法人地域総合整備財団(平成29年度)に於いて(表3第8回)。
※3 一般財団法人地域総合整備財団の規程により、大学と自治体の連携について評価を得たことから、総務省自治行政部地域自立政策課(平成29年度)に於いて(表3第8回)。

【連携の具体的内容】

1. さわらサミット推進プロジェクト

芦屋町では、一般財団法人地域総合整備財団(ふるさと財団)^{注1)}の新・地域再生マネージャー事業により、既存資源のネットワーク化やブランド化を目指した取り組みを推進している。特にヤリイカに次ぐ水揚げがある鱈に着目したブランド化に取り組みしており、その一貫として地域の機運醸成や人材育成を目的としたグルメイベント「さわらサミット」を開催した[平成29年2月25日(土)・26日(日)]。この事業実施において、本学の持つ様々なノウハウ活用や学生の参画により、これまでになく地域イベント創出とブランド化に寄与した(表4)。

注1 地方自治体の充実強化のため、地方公共団体と連携の町に、民間能力を活用した地産地消・創産および機運醸成を支援することを目的とした一般財団法人。

表4 さわらサミットにおける本学の協力内容

協力内容	担当学科	学生数
学生の実行委員会への参画	人間生活	9人
教員によるロゴマークをデザイン	書道教員	0人
学術パネル(食文化・歴史)の作成	人間生活	6人
保育園児のリズムダンスの振り付け	子ども健康	4人
書道パフォーマンス	基礎学専攻	9人
ダンスパフォーマンス	子ども健康	3人
ドレスコレクションの実施	人間生活	8人
教員指導による「さわら巻き」の開発・出店	栄 養	5人
計		44人

来場者数/9,100人、投票総数/4,700票
 参加店舗数/11店舗、協力店舗数/3店舗
 全店舗の提供食数/7,900食、本学の提供食数/751食



さわらサミットポスター



学術パネルの展示



さわら巻きの出店

2. 芦屋町課題発見プログラム

人間生活学科のカリキュラムの中で、芦屋町をフィールドに課題発見プログラムを実施した(表5)。本プログラムは、アクティブラーニングを中心に構成しており、この取り組みを通して、知識を展開できる思考力が養われたことがPROGテストから明らかとなった。このことから、一連の活動により「人が集う町、芦屋をめざして」をテーマに、安全・美化・観光の3分野でテーマ設定を行い、提案書を作成、報告することができた。

今後の課題としては、学生に対する評価の醸成を無くすため、評価者(教員)の研修が必要となる。

表5 課題発見プログラム実施内容

実施日	実施内容
4月~5月	グループ事前研修
6月	芦屋町散策と課題発見・グループディスカッション
7月	課題解決ワークショップ・中間発表
10月~11月	グループ活動
12月~1月	ジグソー学習法・成果報告会
参加学生数	40人

3. 地域交流サロンにおける公開講座(硬筆教室)

芦屋町の高齢者を対象に本学の教員(書道担当・古典文学担当)による公開講座「えんぴつでなぞりながら読む徒然草」を行った[平成28年12月5日(月)]。これは、芦屋町の地域交流の促進を図り、高齢者に学び直しの機会を提供するものである。

本講座では、「徒然草」の成立、作者、内容、およびえんぴつの持ち方から美しい文字の書きかたを説明し、硬筆教室だけでは学べない「筆談」という体験を行った。受講者の方々からは、再度講座を受けたいという意見が多く好評を得ることができた。



公開講座の様子・テキスト『えんぴつで徒然草』

4. 壁面構成プロジェクト

芦屋町の地域振興や課題解決のひとつの手法として、本学のノウハウを活かした、住民参画による景観づくりについて企画する目的で、芦屋町内を視察した[平成28年8月1日(月)]。

この結果は表6のとおりであるが、町の計画との整合を図る必要があるため、平成29年度の協議事項とし年次的にステップを踏んで進めていくこととしている。

表6 視察結果・今後の取り組み

アクアシアシアン施設計画
テーマ:「水族館を作ろう!」3プラン 内容:海の生き物の絵を描こう 対象:子どもたち ① 透明のビニールシートに書き、レジャープールアクアシアシアン管理棟の円形に空いた天井から出るすき。[問題点/吊り下げ方法] ② 流水プールの橋の下に書く。または、学生が書くことも選択肢として含む。[問題点/夏以降の制作] ③ ワークショップで完成した絵を学生の手によって、施設内で何らかの形で展開する。[問題点/内容が不透明]
駐輪場施設計画
対象:地域住民 季節に合わせた草花を育てる。また、その草花に合わせて建物にペインティングを行う。[問題点/木場、足場の設置]
丸の内住宅および倉庫施設考察
対象:アーティスト 丸の内住宅(旧管理のアパート)は、アーティストが芦屋町に滞在し、ワークショップや展覧会を開催してもらおう際の宿泊先として適していると思われる。[問題点/宿泊、生活するために必要なものが足りない]



図2 アクアシアシアン管理棟イメージ



図3 草花の植付、建物ペインティングイメージ

【成果・今後の展開】

平成28年度は、連携初年度であったことから、上半期(4月~9月)は連携内容について協議を重ねることが中心となり、下半期(10月~3月)から本格的に連携事業を実践できた。

この連携事業を通して、芦屋町の住民と様々な場面で接する機会が増えたことから、学生のコミュニケーション能力の向上が見られ、地域をフィールドとした実践教育を展開することができた。また、間接的には芦屋町の活性化等の一助と成り得た。

今後の展開としては、これらの連携事業を継続し、内容の充実を図るとともに、更に研究活動に繋げられる方策についても併せて考えたい。また、芦屋町との連携事業で得た知見をもとに、他地域とも連携事業を推進したい。

【引用・参考文献】

- 福岡県地図
http://www.2m.biglobe.ne.jp/ZenTech/japan/map/data/fukuoka_outline.gif
- 芦屋町役場公式IP
<http://www.town.ashiya.lg.jp/>
- 九州女子大学・九州女子短期大学 地域教育実践研究センター
 『平成28年度地域連携事業報告書』

インターンシップ登録票

学部・学科(専攻)	学年	学籍番号	氏名
	年		
現住所		連絡先	
〒		Tel:携帯(- -) Tel:自宅(- -) E-mail()	
インターンシップ先		勤務先住所	受入期間/実働日数
【緊急連絡先】			
氏名:		続柄()	住所:〒
Tel:携帯(- -)			
Tel:自宅(- -)			
【インターンシップを希望する理由・目標】			
【自己PR】			

インターンシップ履歴

時期	種類	受入先	期間	日数
1回目 年度 期	文系・PBL 九イ協・山イ協			
2回目 年度 期	文系・PBL 九イ協・山イ協			
3回目 年度 期	文系・PBL 九イ協・山イ協			
4回目 年度 期	文系・PBL 九イ協・山イ協			
5回目 年度 期	文系・PBL 九イ協・山イ協			

インターンシップ報告書

記入日： 年 月 日

インターンシップ参加の成果として、項目に沿って報告書を作成して下さい。

◆学生・インターンシップ情報

氏名	学部・学科・学年	学部	学科	専攻	年
	学籍番号・氏名				
研修先					
研修期間	平成 年 月 日 () ~ 月 日 () 日間				

◆インターンシップを志望した理由

--

◆インターンシップで経験した業務と成果

経験した業務
成果 (学んだことなど)

◆参加前に設定した自分自身の目標と自己評価

自己目標						
自己評価（達成度）						
該当する自己評価に○印を記入してください	自己評価区分	5	4	3	2	1

※自己評価区分：5（大変優れている）、4（優れている）、3（普通）、2（やや劣る）、1（劣る）

◆インターンシップに参加して感じた気づき（自分の長所や課題点、これまでの大学生活の学びの活きた点、今後大学の授業等で意識して努力すべき点等、今回の経験を通して感じた内容を具体的に記入して下さい。）

--

◆インターンシップでの経験の活用（今回の経験を今後就職や就職活動にどのように活かしていきたいか具体的に記入して下さい。）

--

ボランティア活動日誌

担当教員 ()

学部・学科(専攻)		学年	年	学籍番号	
氏名		派遣先			

第 回	平成 年 月 日() 時 分～ 時 分(実働 時間 分)
活動・学修 内容	
感想・印象的な 事柄	
反省点・課題	
検 印	

第 回	平成 年 月 日() 時 分～ 時 分(実働 時間 分)
活動・学修 内容	
感想・印象的な 事柄	
反省点・課題	
検 印	

編集後記

本誌は、平成29年度に九州女子大学・九州女子短期大学、および地域教育実践研究センターで実施した地域連携事業を皆様にご報告するため、発行いたしました。

平成29年度は、新たに地域活性学会における本学連携事業の事例発表、および水巻町との共同研究事業等、研究活動に重点を置いて取り組みました。また、北九州市や芦屋町等との継続事業につきましても、内容を充実し、さらなる広がりを見せています。さらに、組織的に連携事業の客観性を担保しつつ、一層の改善に資するため、外部評価委員会を定期的に開催し、外部の組織、地域の方々のご意見等を頂戴することで自己点検・評価活動に繋げました。

本誌を契機として、皆様と新たな連携事業を実施できることを期待するとともに、本学の地域連携活動、および地域貢献活動のさらなる発展を目指してまいります。

地域教育実践研究センター 所長 古城 和子

平成29年度 地域連携事業報告書

発行：平成30年3月31日

編集：学校法人福原学園 九州女子大学・九州女子短期大学
地域教育実践研究センター

〒807-8586 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1
Tel：093-693-3118 Fax：093-693-8203
E-mail：chiiki-c@fains.jp

